

令和3年度

災害対策本部図上訓練

成果報告書

訓練実施日：令和3年11月15日



(株) 総合防災ソリューション

目 次

I 受託業務の概要 1

- 1 受託業務名
- 2 業務の目的
- 3 業務期間

II 訓練の概要 1

- 1 訓練目的
- 2 訓練の内容
- 3 訓練実施日時
- 4 訓練実施場所
- 5 訓練参加者及び編成
- 6 訓練の形式
- 7 訓練想定

III 業務実施内容 4

- 1 資料の収集・確認、打合せ・協議
- 2 図上訓練実施計画の作成
- 3 図上訓練の支援
- 4 事後検討会

IV 訓練結果の取りまとめ 7

- 1 評価・検証結果の総括
- 2 課題及び対応策
- 3 評価・検証員による評価結果
- 4 訓練振り返り結果
- 5 アンケート集計結果
- 6 所見及び講評
- 7 訓練の記録

V 結びに 12

- 別紙1 「評価・検証結果に対する意見等の確認について」
- 別紙2 「評価・検証結果」
- 別紙3 「訓練振り返り結果」
- 別紙4 「アンケート集計結果」
- 別紙5 「訓練等記録写真」

【訓練使用資料】

別 冊「訓練実施計画」

- 別紙 1 「訓練会場配置図」
- 別紙 2 「訓練編成表」
- 別紙 3 「訓練シナリオ」
- 別紙 4 「評価・検証チェックリスト」
- 別紙 5 「アンケート調査票」
- 別紙 6 「訓練振り返りワークシート」

- 付冊 1 「被害想定」
- 付冊 2 「初期情報」
- 付冊 3 「状況付与計画」
- 付冊 4 「訓練実施規定」
- 付冊 5 「訓練統裁計画」

I 受託業務の概要

1 受託業務名

高知市災害対策本部図上訓練業務委託

2 業務の目的

「令和3年度の水防編成において、発生する可能性の高い台風や集中豪雨による洪水及び土砂災害等を想定した図上訓練」を支援して、災害対策本部の迅速な対応及び意思決定能力の向上に寄与するとともに、訓練の評価支援、課題の抽出並びに対応策の提案を行い、「高知市地域防災計画」、「高知市水防計画」、「災害時初動活動マニュアル」等の検証を目的とする。

3 業務期間

令和3年5月19日（契約締結日）から令和4年3月31日まで

II 訓練の概要

1 訓練目的

新年度の水防編成において、発生する可能性の高い台風や集中豪雨による洪水及び土砂災害等を想定した図上訓練を支援して、災害対策本部の迅速な対応及び意思決定能力の向上を目的とした。

2 訓練の内容

- (1) 情報収集・分析による課題の把握
- (2) 総合状況図の活用
- (3) 災害対策本部内の連携・調整
- (4) 庁内各部局との連携
- (5) 関係機関との調整

3 訓練実施日時

(1) 時間計画

令和3年11月15日（月）09：00～19：00

(2) 時間計画

項目	時間	実施内容
訓練準備	09：00～	災害発生6時間後を想定した災害対策本部の体制確立（各部で作業）

項目	時間	実施内容
	12:00	<ul style="list-style-type: none"> 各部、各班の認識統一 訓練想定 of 状況把握及び掲示物準備準備完了
休憩		
図上訓練	13:00	訓練開始式
	13:10	訓練説明 (訓練の流れや参加者及び会場の説明等)
	13:20	状況開始 ・状況付与に基づき各部対応
	16:00	本部員会議
	16:30	状況終了
講評等	16:30	講評
終了	16:40	訓練終了、撤収開始
	19:00	撤収完了

4 訓練実施場所

総合あんしんセンター5階（災害対策本部室）及び3階（大会議室）
本部員会議室、災害対策本部室、大会議室及び中会議室

(1) プレーヤー

本部員会議室、災害対策本部室及び大会議室

(2) コントローラー

中会議室

5 訓練参加者及び編成

(1) 訓練参加者

ア 本部員会議職員

イ 災害対策本部（総合対策部、総務・情報部、応急対策部、廃棄物対策部、支部運営部、現地支援部）の職員

ウ 各部職員（コントローラー）

エ その他関係機関（自衛隊、県警）

(2) 訓練編成

ア 編成要領

統制官を市長とし、市職員、関係機関職員及びDPSOL社員をもって、統制部（コントローラー）と訓練部（プレーヤー）を編成した。

イ 統制部（コントローラー）

市職員及びDPSOL社員により、企画統制班、状況付与・対応班及び評価・検証班を編成した。

ウ 訓練部（プレーヤー）

高知市の指定する職員等により、災害対策本部の各部・班等を編成した。

6 訓練の方式

状況付与型図上訓練（シナリオ非開示）及び本部員会議運営訓練

7 訓練想定

（1）状況の設定

ア 過去に発生した水害や土砂災害の観測資料を参考に、降水量及び主要河川の水位等を設定し、気象関連情報等を想定した。

イ 超大型で猛烈な台風第10号の接近に伴う猛烈な暴風雨により、最大風速50m/s以上の暴風被害、1時間降水量約100mm以上、期間内の総降水量約1,300mmにより発生した水害及び土砂災害等を設定した。

ウ 台風の接近に伴い気象庁等から発表された警報・注意報は、以下のとおり。

（ア）11月14日（日）6時00分 高知県中部に『大雨注意報』発表

（イ）11月14日（日）12時00分 高知県中部に『暴風警報』発表

（ウ）11月14日（日）14時00分 高知県中部に『大雨警報（土砂災害）』発表

（エ）11月14日（日）18時00分 高知県中部に『大雨警報（浸水害）』発表

（オ）11月14日（日）21時00分 高知県中部に『台風特別警報』及び『洪水警報』発表

（カ）11月15日（月）0時00分 高知県中部に『高潮警報』発表

（キ）11月15日（月）1時00分 高知県中部に『土砂災害警戒情報』発表

（ク）11月15日（月）3時00分 高知県中部に『記録的短時間大雨情報』発表

（ケ）11月15日（月）5時00分 高知県中部に『大雨特別警報』発表

エ 台風10号接近に伴い、高知市は14日（日）17時に災害対策本部（第2次配備体制）を設置完了した。

（2）被害想定

平成10年9月豪雨及び平成26年8月の台風第11・12号による集中豪雨等で発生した災害等に基づくとともに、新たな高知市洪水ハザードマップ（令和元年9月改訂）、令和元年台風第15号及び第19号等を踏まえて、河川の氾濫による被害及び土砂災害による被害等を市内全域に設定した。

Ⅲ 業務実施内容

1 資料の収集・確認、打合せ・協議

(1) 資料の収集・確認

「災害時初動活動マニュアル」(以下「活動マニュアル」という。)を収集し、その記載内容、各部・室・班の役割等を確認するとともに「地域防災計画」により、高知市災害対策本部の体制及び避難施設等の状況を把握した。
また、被害想定を実際的に作成するため「高知市洪水ハザードマップ」及び「高知市土砂災害ハザードマップ」を参照した。

(2) 打合せ・協議

「活動マニュアル」の記載事項の確認、高知市の災害対応の概要把握、訓練に関する事項について、高知市防災政策課において打合せ・協議を行うとともに、適時に電話・メールで確認・調整を行った。

2 図上訓練実施計画の作成

(1) 訓練シナリオ

ア 訓練目的の達成を容易にすることを主眼とし、平成10年9月豪雨及び平成26年8月の台風等に起因する集中豪雨による被害、並びに令和元年台風第15号及び第19号の課題・教訓等を踏まえた訓練シナリオとした。

イ 訓練シナリオは、台風説明会の開催や各種気象情報が発表され、「災害警戒期の行動」「災害対策(水防)本部の設置」「災害発生直後の行動」等の「災害時初動活動マニュアル(一般対策編)」の範囲内とし、情報の収集・分析・処理、応急対策(市民対応、避難情報の発令、水防活動、救出救助活動等)の立案・調整及び本部員会議(本部長への状況報告)までの一連の行動を含むものとした。

(2) 被害想定

平成10年9月豪雨及び平成26年8月の台風による豪雨時の被害に基づき、高知市の特性を踏まえ、被害想定を作成した。

(3) 状況付与計画

ア 基本的な考え方

訓練目的、訓練内容、災害対策本部各部・室・班等の事務分掌及び被害想定に基づき、評価・検証項目等に応ずる状況付与項目、状況付与内容を検討し、それらを状況付与計画表、状況付与項目一覧表及び状況付与カードとして具体化した。

また、過去の水害における教訓等を踏まえ、付与する事象及び主要な状況を以下の項目とし、災害対策本部の対応を促す内容とした。

①河川の防災情報(雨量及び水位観測の状況)

②土砂災害、洪水・浸水被害通報による人的・物的被害の発生

- ③停電・浸水等の被害
- ④県等からの情報提供、報告の求め
- ⑤市民やマスコミからの問合せ・要請等
- ⑥避難所からの報告
- ⑦新型コロナウイルス感染疑いのある避難者の発生

イ 初期情報

台風接近から避難勧告発令までの状況を初期情報として作成し、事前説明会で全員に配布、説明した。

ウ 状況付与計画表

上記ア項「基本的な考え方」に基づき、訓練間に付与する部署（誰に）ごとに付与する項目（何を）、付与元（誰から）を時系列（何時）で記載した「状況付与計画表」を作成した。

エ 状況付与項目一覧表

状況付与計画表に基づき、付与項目を時系列で整理、これに付与方法（電話、FAX（紙面）等）及び付与する細部の内容等を加えた「状況付与項目一覧表」を作成した。

オ 状況付与カード

状況付与項目一覧表から、付与項目ごとそれぞれ1枚とした「状況付与カード」を作成した。

この際、付与に関する場所や被害をより具体的にイメージするため、図表等を必要に応じ添付した。

（４）訓練実施規定

訓練を効果的かつ円滑に進めるため、訓練参加者の活動に関して必要な統制事項等を記載した「訓練実施規定」を作成、事前説明会で配布、説明した。訓練実施規定に記載した主な項目は以下のとおり。

- ア 訓練組織の構成
- イ 使用する書類及び活動記録
- ウ 各種情報の収集・伝達等の手段
- エ 訓練中のプレーヤーの行動
- オ 報告事項、服装、訓練の中止等

（５）訓練統裁計画

訓練目的を達成するため、統制部各班及び要員の活動の準拠となる訓練統裁計画を作成した。

訓練統裁計画はコントローラー運営要領及びコントローラー資料の構成とした。

(6) 評価・検証

訓練実施間の評価・検証は、評価・検証チェックリストに基づく評価・検証員による評価、訓練参加者による自己評価（アンケート）、訓練の振り返り、講評等により行い、総合的かつ客観的な分析・検討とした。

別冊「訓練実施計画」

3 図上訓練の支援

(1) 事前説明会

令和3年11月10日（水）、訓練の概要（状況の設定、進行要領等）、初期情報及び訓練実施規定等を説明、訓練の円滑化を図るため説明会を支援した。

(2) 訓練会場準備

前日及び当日の訓練会場準備等を支援した。

(3) 図上訓練の運営支援

ア 運営及び状況付与の補佐

コントローラーとして DPSOL 社員 3 名をもって、訓練の進行・運営管理及び状況付与を補佐した。

イ 評価・検証

DPSOL 社員 6 名を、評価・検証員として配置し、評価・検証チェックリストに基づく訓練の評価・検証を支援した。

この際、訓練間に、各部・室・班が作成した資料、処置票及び報告文書等を回収し、事実関係並びに活動内容の確認に活用した。

(4) 訓練の振り返り

訓練終了後に訓練間の活動や行動要領の適否や対応策を考察するため、各部毎の訓練の振り返りによる討議を実施した。

(5) アンケート調査

訓練に参加した職員が役割、業務内容、業務実行状況等及び「災害時初動活動マニュアル」について感じた事項や課題等についてのアンケート調査を実施した。

4 事後検討会

新型コロナウイルス感染症蔓延防止の観点から、事後検討会を文書配布に変更し、「評価・検証結果からの課題・検討」、「アンケート集計結果」、「訓練振り返り結果」、「評価・検証結果」を文書配布、検証結果の確認、図上訓練の成果と課題の確認、各部から意見をいただいた。

別紙 1 「評価・検証結果に対する意見等の確認について」

IV 訓練結果の取りまとめ

1 評価・検証結果の総括

令和3年度における災害対策本部図上訓練は、高知市が継続的に取り組まれてきた各種計画及びマニュアルの見直し・整備、蓄積されたこれまでの訓練成果を踏まえ、より实际的（実践的）かつ意欲的に訓練に取り組まれていました。

訓練参加者の特性として、令和2年度訓練は新型コロナウイルス感染症蔓延防止上の観点から中止となったこともあり、アンケート調査で初めて参加の職員が6割の実情となりましたが、この点は前回（令和元年度）と同様です。（ロールプレイング方式訓練／シナリオ非開示）

初めて訓練参加の6割の細部分析で、支部運営部2割を除き、いずれの部も6割以上、廃棄物支援部及び現地支援部は8割以上と前回訓練で総務・情報部及び応急対策部の8割以上は共通しています。

今回の訓練で、恒常的に災害対応にあたる部署である総合対策部が前回訓練で2割以下に対し、今回は7割以上となり、アンケート調査の各部内訳でも確認できるとおり、各設問に「できた」の回答が他の各部に比し、低いことは特徴的でした。

参加者は意欲的・熱心に訓練に取り組まれましたが、1年以上期間を経て行われた訓練で、災害対応のイメージや災害対策活動経験の不足による迷いや停滞がアンケート調査、訓練振り返り、評価・検証員の評価・検証の結果にそれぞれ現れたものと思われました。

（1）良好であった事項

ア 実際に災害対応を予定する災害対策本部体制での実践的な訓練

実践的な訓練により訓練参加者は災害対応特性のイメージを共有できた。

イ 「災害時初動活動マニュアル」の検証

災害時初動活動マニュアルに示された各部等の業務内容に基づく災害対策活動が行われ、マニュアルの問題点や改善事項等の資を得た。

ウ 情報の集約・共有を企図した「総合防災情報システム」の活用

総合防災情報システムによる情報の集約・共有を図り、システムの問題点や今後の課題等を得た。

（2）改善（検討）が望ましいと思われる事項

ア 「災害時初動活動マニュアル」の更なる充実

今回の訓練において、確認できた範囲及び訓練参加者の意見から、マニュアルに大きな欠落事項は無いと思われませんが、アンケート調査及び訓練振り返りにマニュアル改善に対する多数の意見、評価・検証結果にマニュアル改善への提言がありますので、これらも参考にマニュアルの更なる充実が必要と思われます。

また、今回の訓練が2年ぶりとなった特性上、初めて参加の職員はもとより、参加したことのある職員にとっても、訓練の習熟度を補うがごとく、マニユ

ルを頼りとしたため、気付きも多く、アンケート調査（災害時初動マニュアルの充実が必須であると感じた93%：74件）及び訓練振り返り（マニュアルの作成、改善、修正等意見12件）に意見多数として、表われたものと思料します。

各部と防災政策課相互間で改善等に関する分析・検討を行い、マニュアルに反映、訓練で検証を繰り返すことにより、災害対応に即応可能なマニュアルを向上・維持できるものと思われま

イ 「総合防災情報システム」を活用した情報の集約・共有要領

「総合防災情報システム」を活用した情報集約・共有で効果を得た一方で、システムの改善についての意見を反映させた拡充が必要と思われま

併せて、システム操作等の機会を訓練前に行い、習熟を図ることも一案と思われま

ウ 地図・ホワイトボードの活用

総合情報システム等により情報共有を行うことで、地図・ホワイトボードの利用は不要と意見もある一方で、システムの活用には電源の確保、パソコン周辺機器及び通信環境の確保など条件下での利用であり、引き続き、地図・ホワイトボードの活用を継続することが必要と思われま

地図・ホワイトボードの活用を容易にする基本事項として、凡例の統一や文具類の定期的な点検・整備、より見やすくわかりやすい内容とするために、図表（マニュアルやシステムで定型化した様式）の利用、記録として残すために模造紙利用の意見もありま

2 課題及び対応策

(1) 課題

「訓練機会の創出及びマニュアルの充実」

冒頭で触れたように災害時に召集されて災害対応にあたる職員の訓練参加経験の低さに由来したアンケート調査及び訓練振り返り等の結果からも災害対応イメージや災害対策活動経験の不足による迷いや停滞などが見受けられ、マニュアル等の充実意見として現れたものと思われま

このため、高知市災害対策本部として災害対応能力を如何に向上させるという必要性と現業の業務遂行及び新型コロナ感染症蔓延防止などに対応しつつ、如何に職員の能力を向上させるかの実効の可能性から検討が必要と思われま

(2) 対応策

「ワークショップ型訓練の実施による職員の災害対応能力の向上」

今回実施した災害対策本部図上訓練のような本格的な訓練ではなく、軽易な訓練や研修、例えばワークショップ型訓練等を行う事により、参加する職員範囲の拡充と災害対応への習熟度の向上（自己の役割の認識）及びマニュアルへの具体的な反映が期待できるものと思われま

実施要領の一案として、段階的な以下の要領を提示します。

①第1回ワークショップ型訓練（第1段階）

- ・実施単位：各部署ごと実施（個別訓練）
- ・訓練時間：1～2時間程度
- ・訓練要領：ワークシートに基づく討議形式
- ・訓練内容：部署の分掌業務の確認、ケーススタディによるグループ討議
部署の業務を行う上で必要な事項、問題点及び改善策
マニュアルに記載させる事が必要な事項

②第2回ワークショップ型訓練（第2段階）

- ・実施単位：災害対策本部統括本部（全体訓練）
- ・訓練時間：2～3時間程度
- ・訓練要領：各部署の訓練成果（作成ワークシート）を取りまとめ・総合化
- ・訓練内容：各部署の分掌業務の確認・整合、統括本部としての業務を行う上で必要な事項、問題点及び改善策
共通マニュアルとして記載すべき事項、各部署マニュアル反映で
とどめる事項

3 評価・検証員による評価結果

評価・検証は、訓練目的の達成状況を明らかにするため、災害対策本部運営体制及び「活動マニュアル」等を検証するために作成した「評価・検証チェックリスト」を使用して評価・検証を行い、その評価区分は、共通事項と各部署・室・班の業務に基づく事項とした。各部署担当の評価・検証員による「評価・検証チェックリスト」に基づく評価結果は、別紙2のとおり

別紙2「評価・検証結果」

4 訓練振り返り結果

訓練終了後、各部署毎の訓練の振り返りによる討議の結果は、別紙3のとおり。

別紙3「訓練振り返り結果」

5 アンケート集計結果

訓練に参加した職員が役割、業務内容、業務実行状況等及び災害時初動活動マニュアル等に関する課題等を確認するためのアンケート調査を実施し、その集計結果は、別紙4のとおり。

別紙4「アンケート集計結果」

6 所見及び講評

(1) 所見：DPSOL（澤野危機管理業務部長）

本日午前中からの訓練準備、午後から図上訓練、大変お疲れ様でございました。朝からずっと拝見させていただき、皆さん、非常に熱心に訓練をされていた。去年1年間は訓練できずに期間が開いたため、少し戸惑いもあったかもしれませんが、熱心に訓練に取り組まれたと感想を持ちました。せっかくの機会ですので、気付いたことを一つ二つ述べたいと思います。

まず、被害がたくさん起こっているのので、第2回の本部員会議で本部長から、人命救助を第一にやりなさいと指導、指針が出ております。だから、皆さんは、当然その次の会議までは本部長が言われた人命救助を第一に「どんなことをするのだろう。」もしくは、次の本部長会議で「何を」「本部長に決心していただかないかん。」ということ常を頭に置いて災害対応をやる必要がある。一例を上げますと、人命救助には「どれだけの行方不明者がいて」「どれだけの要救助者がいるのだろう」ということですね。それを集めて整理をして「どの付近に」「どのくらいの方が救助を求めているのか。」さらに浸水地域が沢山ありますので、ひょっとしたら「この付近でも屋上で救助を待っている人がいるのではないか。」というところを含めると、「かなりの人が救助を待っている可能性がある。」それに対して救助部隊。今回は自衛隊、警察、消防が来られていましたが、「救助部隊は足りているのか。」ということ。「どういう活動して」「どこにどのくらい配分して」そして「救助部隊は足りるのか。」足りるのであれば本部長に「救助部隊大丈夫です。」と本部会議で報告できるし、いや足りないとすれば、「この被害対し、この救助部隊しかいないので、例えば自衛隊に災害派遣部隊をこのくらい要求してください。」というように物事を考えていく。これは一例です。

それから、「物は足りているのか。」「支援する職員は足りているのか。」先ほどの本部員会議でも、話があったのですが「どのくらい足りてないのか。」「足りるのか。」それを速く明らかにして、本部長に申し上げ、「職員派遣制度などの支援、県、市、あるいは協力市町村をお願いをする。」「協定業者をお願いをする。」という活動になっていくわけです。その辺もちょっと頭に置いて活動していただければ更に災害対策活動が良くなると思います。

今回は情報を処理するだけで精一杯だったと思いますが、少しこれに慣れていただいで、情報の中から「自分たちが何をやらなければならないか。」ということ常を考えながら災害対応にあたっただけであればと思います。災害が起きた時に慌てないために訓練をしっかりやっていただく事は有難い事と思います。

(2) 講評：高知市長

2年ぶりになりましたけれども、凶上訓練、それぞれお疲れ様でございました。また自衛隊の皆さま方、また高知県警の皆さま方にもご支援いただき、またリエゾンとしてもご協力をいただきました。御礼申し上げたいと思います。

全体として気付いた点、ちょっと2年ぶりになったということもありますので、それぞれの班、やっぱりあちこちで目詰まりがしていたという印象が、全体を見ていてあります。それと、今日は情報をかなりプッシュしてどんどん、どんどん入れていますので、意識的に入れているのですけれども、印象に残った言葉が有り、全体として多すぎる情報に溺れてしまっていると。現場がって言って、職員は呟いていて、非常に印象的な今日の言葉であったと思います。

情報は、皆さま方も十分理解されているように、最優先の情報と少し後で置いていい情報とか、今日はある意味玉石混交のように全部が入り乱れているので、最優先する情報は、今日の中でもたくさんあったのですけれども、例えば、さっき報告があったように、「三十数名が行方不明になっています。」「救助救出に自衛隊が入った。」ということが書かれているのですが、「何名救助されて何名残っているか。」と一番大事な情報が書かれてないので、「多分何人の方が行方不明になっている。」っていうのは、どんどん、どんどん足し算のように積み重ねていきますけど、それで現場救助に入っていますので、救助された人数を引いていく引き算のデータも重要なデータとしているので、「あと何人残っているから、そこへの部隊を何人投入するかという判断になる。」ので、「今日は残念ながらそこはできていなかったということがちょっと気になりました。」

それともう一つ、「ポンプ場がいくつか止まった。」という情報を入れているのですけれども、高知市内の一番の大きな下水の処理場の排水能力が一番高いのは、海老ノ丸ポンプ場です。「海老ノ丸のポンプ場の稼働が止まれば、下側が全部溢水してしまうので、あそこが我々の井戸の生命線です。」けれども、表現としては「下地ポンプ場が止まっている。」という表現でした。けれども、この、実は高知市内にとっては非常に重要な情報であって、「下地ポンプ場、海老ノ丸ポンプ場が稼働しなければ、その上流の方々、広域避難をできるだけ早くさせないといけないので。」そういうことがちょっと情報としては、本部全体として共通に働いていなかったと思います。

何を言いたいかということ、「情報は何が最優先かということが。」これがまだまだ「十分さび分けができていなかったのではないか。」というところが、ちょっと「反省点として残っているのではないかな。」というところで、すごく情報量は多いので、「情報の何を最優先さすか。」「本部として何を最優先させるか。」というところを少し「意識をしていただきますようお願い申し上げたい。」と思います。

職員の皆さま方、「防災に対する知識は非常に高い。」ので、その点は感謝するのですが、「これを組織として機能させないといけない。」ので、本部が全体情報に埋まってしまうと機能しないので、「やっぱり情報のさび分け。」ということ

ちょっと意識していただいたほうがいいのかなと。そうすると、「少ない人数で対応している。」ので、そこへ「何を集中するかを皆同じ意識で持てる。」ので、そのことを今日また強く感じたところです。それで、市の職員の意識が非常に高いので、そのことに感謝申し上げますが、「もう少し機能的に動けるように。」ということ、「少しシステムとかデータ化を含め、今後、我々も検討していきたいと思います。」お疲れ様でした。ありがとうございました。

8 訓練の記録

事前説明会、訓練実施状況、講評等及び事後検討会等を写真撮影し記録として整理した。

別紙5「訓練等記録写真」

V 結びに

「IV 訓練結果の取りまとめ」の冒頭で述べましたように、現在、高知市が取り組まれている実践的かつ段階的な訓練を継続する際の本年度訓練の特性を重視され、明確な意思をもち、訓練参加職員は真摯に訓練に臨まれ、その訓練成果の積み上げが着実に蓄積されているものと思います。

今回の訓練を通じた評価・検証員による評価・検証、各部訓練振り返り、アンケート集計等の結果及び事後検討会（文書配布）の意見などをまとめましたがこれらも参考に、高知市の災害対応体制にさらなる充実・強化が、より一層、図られますよう祈念いたします。

評価・検証結果に対する意見等の確認について

部名：総務・情報部

各部の「評価・検証結果」における報告事項について、意見等の有無をお示しの上、ご回答ください。

(意見有り) ・ (意見無し)

(意見記入欄)

1 総務・情報受理班

- ・緊急度の高さ等に応じて、ケース別に電話の転送先を決めておくなどの対応が必要。
- ・地図やホワイトボードの情報共有ができていなかったため、改善が必要。

2 広報班

(1) 災害対策業務全般

- ・紙ベースでの対応には多くの課題がある（共有できない・コピー機の待ち時間等）ので、行政事務支援システムの掲示板機能を活用することや、「LoGo チャット」を導入する等、情報をデータで管理する方法の検討が必要と感じる。

(2) 広報班のマニュアル等の改善について

- ・情報の全体フローや分類方法については、部全体として事前に周知する必要がある。
- ・広報班業務の詳細は、経験知やメモで行われており、未経験者は業務について自分で考え行動・判断することが難しいため、以下の内容を中心とした詳細なマニュアル作成が必要。

- ① 定時報告に掲載する情報の収集・作成方法について、システムから抽出した情報の精査方法、必要な情報はどこで収集できるのか。（収集する相手方のマニュアルにも広報班への情報提供について記載が必要。）
- ② 定時報告の内容について、現状の被害状況（通報及び要請件数）・避難所開設状況で良いのか。災害規模や種類によって変更する必要性はないのか。現在提供している通報等の情報は、優先順位として高いのかどうか疑問がある。
- ③ 「情報の開示の体制・要領について検討する必要があると史料する」と評価されているように、マスコミへの対応判断フローなどについては、マニュアルへの記載が必要。

3 その他

- ・総務・情報受理班及び広報班は、市民やマスコミの直接的な窓口となるため、常に最新の情報を収集しておく必要があるが、災害発生時には問い合わせが多く、目の前の対応に追われてしまうことから、最新情報を取りに行けない状況となる。放送やホワイトボード以外の方法で情報が入ってくる手法を、災害対策本部全体のフローの中で再検討する必要がある。

評価・検証結果に対する意見等の確認について

部名： 廃棄物対策部

各部の「評価・検証結果」における報告事項について、意見等の有無をお示しの上、ご回答ください。

(**意見有り**) ・ 意見無し)

(意見記入欄)

(共通) :

【評価項目】 関係する部署（機関）に対する報告・通報・伝達・指示は適切であったか
・「特に廃棄物集積所の候補地決定段階では、県警などへの通報が必要」との指摘については、視点になかった事項でした。

【評価項目】 その他、気付き事項

・記載のあるシステム以外での情報収集について、情報源が複数ある場合、どの情報が最新であるか判断に迷ったり、情報が錯綜する事が考えられるため、情報源の優先順位を明確にしておくべきではないでしょうか。(①電話等口頭での本部への連絡、②システム掲載の情報 等)

・電話や口頭での確認を最も優先すべき情報とする場合、一定タイミングで本部に確認する事や、その確認方法についても手順に組み込んでおけば担当は動きやすいです。

・各セクション間の連携の重要性を再認識させられました。

(廃棄物対策部) :

・「集積しきれない場合の他の集積場所の候補地検討」に一考を要するとの指摘については、初動に意識が向きがちであったことの反省点であると考えます。

・「特に検討を要すると思われる事項」中

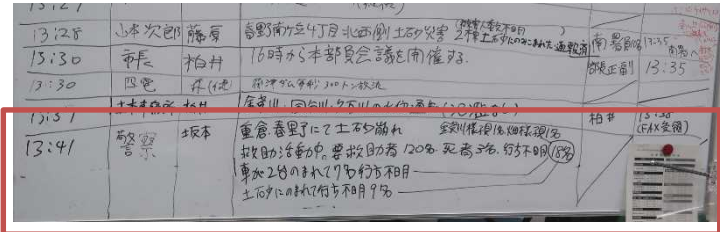
①の集積所における勤務員について、3か所で84名、さらに1か所増えるごとに28名が必要となる点について、これだけの人員が確保できるかどうか疑問があります。民間委託も視野に入れた検討が必要ではないかと感じられました。

②の「運営に必要な資器材、油圧ショベル等の重機の確保の手配も必要」の点については、集積所の運営に必要な資機材、油圧ショベル等についてリストアップし、あらかじめ建設業協会等と共通認識を行うことが必要であると感じられました。

評価・検証員による評価・検証結果

- 1 総合対策部
- 2 総務・情報部
- 3 応急対策部
- 4 廃棄物対策部
- 5 支部運営部
- 6 現地支援部

評価項目	評価																																				
<p>任務及び自己・班の業務を理解していたか。</p>	<p>総合対策班は、災害時初動マニュアルに基づき、情報の収集、クロノロジー（時系列対応記録）の作成に係る業務は概ね適切に行っていた。</p> <p>情報分析班は、提供を受けた被害状況や浸水状況等に基づき、適時に被害状況図の作成や維持管理に係る業務は適切に行っていた。</p> <p>また、各班内の職員に、電話受信担当、クロノロジー作成担当、本部会議資料作成担当、地図作成担当などの業務担当を示して、災害対策本部活動を行っていたことから、災害時初動マニュアルに記載された内容は理解していると思われる。</p> <p>しかしながら総合対策班は、情報の収集・整理において、提供をうけた情報をクロノロジーとして作成する活動に終始していた。</p> <p>これは、災害時初動マニュアルに各部・班員が災害発生時における具体的実施要領・対応に関する記述が見当たらないことに原因があると思われる。</p> <p>このため、初動マニュアルの整備・修正が必要であると思われる。</p>																																				
<p>班（室・部）内の情報の共有は適切であったか。 （ホワイトボード・図表・地図等の活用）</p>	<p>情報分析班が、被害状況図を適時に作成していたことは極めて適切である。また、総合対策班がホワイトボードを活用し、クロノロジーを作成していたことは適切である。</p> <div data-bbox="662 1422 1109 1758" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="654 1769 1252 2072" data-label="Table"> <table border="1"> <thead> <tr> <th>発時間</th> <th>担当者</th> <th>受信者</th> <th>内容</th> <th>対応者</th> <th>対応完了時間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>13:00</td> <td>浦村</td> <td>北村</td> <td>浦村から北村へ（北村へ）</td> <td>浦村</td> <td>13:05</td> </tr> <tr> <td>13:50</td> <td>北村</td> <td>北村</td> <td>北村から北村へ（北村へ）</td> <td>北村</td> <td></td> </tr> <tr> <td>14:00</td> <td>北村</td> <td>北村</td> <td>北村から北村へ（北村へ）</td> <td>北村</td> <td></td> </tr> <tr> <td>14:00</td> <td>北村</td> <td>北村</td> <td>北村から北村へ（北村へ）</td> <td>北村</td> <td></td> </tr> <tr> <td>14:02</td> <td>北村</td> <td>北村</td> <td>北村から北村へ（北村へ）</td> <td>北村</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> </div>	発時間	担当者	受信者	内容	対応者	対応完了時間	13:00	浦村	北村	浦村から北村へ（北村へ）	浦村	13:05	13:50	北村	北村	北村から北村へ（北村へ）	北村		14:00	北村	北村	北村から北村へ（北村へ）	北村		14:00	北村	北村	北村から北村へ（北村へ）	北村		14:02	北村	北村	北村から北村へ（北村へ）	北村	
発時間	担当者	受信者	内容	対応者	対応完了時間																																
13:00	浦村	北村	浦村から北村へ（北村へ）	浦村	13:05																																
13:50	北村	北村	北村から北村へ（北村へ）	北村																																	
14:00	北村	北村	北村から北村へ（北村へ）	北村																																	
14:00	北村	北村	北村から北村へ（北村へ）	北村																																	
14:02	北村	北村	北村から北村へ（北村へ）	北村																																	

評価項目	評価
	<p>しかしながら、情報の緊急度・重要度の評価、その評価に基づく情報の整理や情報の共有に係る活動は低調であった。</p> <p>これは、情報トリアージが行われず、緊急度・重要度の判定が行われていなかったこと、情報の整理や共有の実施要領が漠然としていることにその要因があると思われる。</p> <p>情報の整理とは、入手した情報（断片情報）を、クロノロジーに整理する、システムに入力し整理する、表形式で整理する、地図で整理する等により、体系化された情報に変換することである。</p> <p>また、情報の共有は、マイクで一斉に伝達する、システムにより伝達する、文書で配布する、班長会議・部長会議・災害対策本部会議で報告する等によるものが一般的である。</p> <p>なお、システムによる入力が行われていたが、全般状況の把握などの活用が図られていなかった。</p>
<p>関係する部署（機関）に対する報告・通報・伝達・指示は適切であったか。</p>	<p>関係部署に対する報告・通報・伝達に係る活動は低調であった。</p> <p>これは、情報の収集・クロノロジーの作成、被害状況図の作成等に忙殺され、関係部署に対する情報の提供、報告・通報までに至らなかったことによるものと思われる。</p> <p>例えば、13時40分頃、重倉・春野において、土所崩れが発生し、要救助者120名が発生する事案が報告され、警察に救助を依頼していたが、この場合は、警察、消防、自衛隊のリエゾンや関係部署の班長が参集した班長調整会議を開催し、被害状況、進出経路、救出対応機関の調整を行う等、情報を共有するような活動が必要であると思われる。</p>  <p>The image shows a handwritten table with columns for time, name, and notes. A red box highlights the entry for 13:41, which describes a landslide at Chikusa and Haruno, resulting in 120 people needing rescue. The notes mention that rescue activities were underway and that the number of victims was 120, with names and names of those who died being recorded. It also notes that the landslide occurred at 2 PM and that the location of the landslide was unclear.</p> <p>関係部署（機関）に情報を提供する場合は、その情報の緊急性・重要性を判断して、</p> <p>①緊急性・重要性がある情報は、口頭・マイク等に</p>

評価項目	評価
	<p>より総括本部の職員全員へ速やかに情報を提供した後、文書配布する。</p> <p>②その他の情報は、各班の災害応急活動に必要な情報を整理・要約して提供する。</p> <p>等、情報の報告・通報・伝達・指示の実施要領について検討することが必要である。</p> <p>また、総括本部が2分割された状況においても、災害応急対応業務を実施せざるをえない執務環境下においても、総括本部として情報を共有し、各部・班が協力して統制ある活動方針のもと、災害対策本部活動を適切に実施しなければならない。</p> <p>情報共有のための一例をあげれば、重要情報は文書配布する、関係情報を共通の掲示板等に掲示する、定期的に班長会議を開催し情報を共有する、班長会議・災害対策本部員会議の様子をビデオ撮影し庁内で放映する（放映内容は、庁内限りとし部外者への提供は禁止・制限すること）等の対応が必要であると考えられる。</p>
<p>状況報告資料の作成（提供）は適切であったか。</p>	<p>災害対策本部会議資料（状況報告資料）は、適時に作成していたが、その内容は、被害状況や処置事項の記載が主な報告内容となっていた。</p> <p>災害対策本部会議資料（状況報告資料）は、本部長や本部員、或いは報告者に対して、必要な情報を整理・要約し、簡潔に記述することが重要である。</p> <p>このため、被害状況や要救助者の状況を表形式にまとめる、土砂災害や浸水地域を地図に記入する、救急・救助部隊・機関の活動状況を地図に記入する、広域物資拠点の状況を表形式で整理するとともに、地図に記入する、使用可能な道路（緊急輸送路など）を地図に記入するなど、本部長等が状況判断するために必要な情報を整理することが重要である。</p>
<p>その他、気付き事項（部・災害対策本部としての活動を含む。）</p>	<p>最後に記述</p>

※ 評価に際し、指摘場面の画像を務めて評価欄に添付（別添可）各部共通

評価項目	評価
<p>【総合対策班】 気象情報、災害情報の収集・整理は適切であったか。</p>	<p>総合対策班は、気象情報、災害情報を適切に収集し、クロノロジーに整理していたことは概ね適切である。</p> <p>しかしながら、情報のトリアージがなされていなかったこと、災害情報を整理・要約できていなかったことは改善が必要である。</p> <p>これに対しては、表形式で重要情報を整理すること、入手した情報の緊急性・重要性の評価を適切に行うことが必要である。</p> <p>また、入手した情報をメモ用紙に書いていたが、災害記録の漏れ防止、整理の観点から1件1様の災害情報通知票（手書き様式）に情報を整理することが重要である。</p> <p>この災害情報通知票を活用することにより、情報内容の漏れ防止、情報の記録・整理が容易となる。</p> <p>また、必要により、複写してクロノロジー担当、関係部署、防災関係機関等に文書配布し、情報の共有が容易となる。</p>
<p>【総合対策班】 災害情報の発信、防災関連システムの運用は適切であったか。</p>	<p>災害情報の発信は、マイクを使用し、迅速に伝達しようと努めていた。</p> <div data-bbox="957 627 1393 974" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="686 1433 1332 1915" data-label="Image"> </div> <p>しかしながら、入手した全ての情報をマイク放送していたことは改善が必要である。</p>

評価項目	評価
	<p>これは、現在の災害対策本部活動の焦点に係る認識が曖昧であること、そのため情報のトリアージができていなかったこと、重視して収集すべき情報が曖昧であったことが主な要因である。</p> <p>これに対しては、現在の災害応急対策の焦点（本訓練においては第2回災害対策本部における本部長指示）について認識を図ること、焦点となる災害応急対策の立案・検討に必要な情報を重視して収集すること、入手した情報の緊急性・重要性を判断（評価）して、適時に災害情報を発信することが重要である。</p> <p>本状況では、土砂災害における人員・家屋被害、浸水被害の状況、要救助者の状況、水揚げポンプの状況など、人命救助活動に関連がある情報を収集・整理して、緊急性・重要性に応じて、マイクによる放送と併せて、文書配布する、システムに入力する等の処置が必要である。</p> <p>次に、システムの運用については、不慣れなような印象であった。総務・情報部や応急対策部が被害状況等をシステム入力して、印刷した浸水地域等の情報を総合対策部情報分析班に提供し、地図に記入していたことは適切である。</p> <p>しかしながら、各部とも、他の部が入力した被害状況等について確認し、活用するような場面は見られなかった。</p> <p>これは、多くの情報の入力・処理に手間取っていたこと、自分の班の情報の処理に忙殺され全般状況を把握する余裕がなかったこと、システムにより被害情報を確認するためのスクリーンや大画面のディスプレイがなかったこと、システムの活用に係る意識が希薄のことなどに原因があると思われる。</p> <p>これに対しては、システムの入力及びその活用に関する機能別訓練が必要である。</p> <p>また、収集した被害状況を投影するスクリーンや大型ディスプレイを準備することが必要である。</p>
<p>【総合対策班】 クロノロジー（活動記録）は整備されていたか。</p>	<p>入手した情報がホワイトボードを活用して、適時にクロノロジーとした整理されており、その活動要領は良好である。</p>

評価項目	評価
	<p>なお、全ての情報をクロノロジーとしてホワイトボードに記入していたが、入手した情報を評価して、重要性・緊急性が高いものをクロノロジーとして整理することも重要であると思われる。</p>
<p>【総合対策班】 災害対策本部の対応方針等の案出は適切であったか。 特に、当面の初動対応のみではなく、今後の被害予測に基づく将来の対応の準備ができていたか。</p>	<p>災害対策本部会議における各部からの報告は、被害状況の報告、それに対する処置に関する報告が大部分であった。</p> <p>また、人命救助における、救出・救助部隊の配置、活動状況、今後の見通しについての報告がなかった。</p> <p>第2回災害対策本部会議において、本部長から、①緊急安全確保発令、②被害状況の把握すること、③救命・救助活動を第一に応急活動を行うこと、④市民への情報提供を行うことについて、指示があった。</p> <p>この指示を踏まえれば、第3回災害対策本部会議の重要な報告事項は、被害状況の概要、緊急安全確保発令した後の避難の状況（避難の状況、要救助者の状況など）、救命・救助活動の状況、市民が必要とする情報内容になると思われる。</p> <p>このため、「今後の救命・救助活動。避難者支援、市民への情報発信に係る対応方針」を案出することになると思われる。</p> <p>本訓練においては、災害対策本部会議時に、本部長が対応方針を適切にご指示されていた。</p> <p>災害対策本部総括本部は、本部長が指示されたような内容を災害対策本部会議の方針案として報告することが必要である。</p>
<p>【情報分析班】 通報情報等の整理、分析及び対応状況の確認は適切であったか。</p>	<p>情報分析班は、通報情報等を適時に被害状況図に記入していたことは適切である。</p> <p>しかしながら、情報の分析に係る活動は低調であった。</p> <p>情報の分析とは、情報を整理・要約した災害応急活動の問題点・課題を明らかにすることである。</p> <p>このため、一般的な情報の分析では、総合状況図の他に、人的・家屋被害等を整理するための被害状況一覧表（仮称）、避難指示等の時間・地域等を整理するための避難指示等状況一覧表（仮称）、避難施設の開設・運営状況等を整理するための避難施設状況</p>

評価項目	評価
	一覧表（仮称）、救急・救助部隊の活動一覧表（仮称）及び応援職員・支援物資一覧表（仮称）等の災害応急対策活動の全般状況を把握するための一覧表を作成して、災害応急対策における問題点・課題を明らかにすることとなる。
【情報分析班】 総合状況図の作成、維持管理は適切であったか。	情報分析班は、適時に被害状況図を作成・更新、維持管理を適切に行っていた。 特に、第3回災害対策本部会議において、本部長に対して、被害状況図を使用した説明を行なったことは極めて良好である。
その他、気付き事項	下記に記述

【その他、気付き事項】

1 災害時職員行動マニュアルの整備

大規模災害発生時において、災害対策本部長以下の本部要員が、防災関係機関等との密接な連携のもと、情報活動、災害応急対策の立案・調整、災害対策本部員会議の開催・運営、災害時広報等、災害対策本部運営業務を円滑かつ適時・適切に実行して行くこと、災害対策本部の業務に不慣れな職員でもより早く業務を理解し、活動できることが重要である。

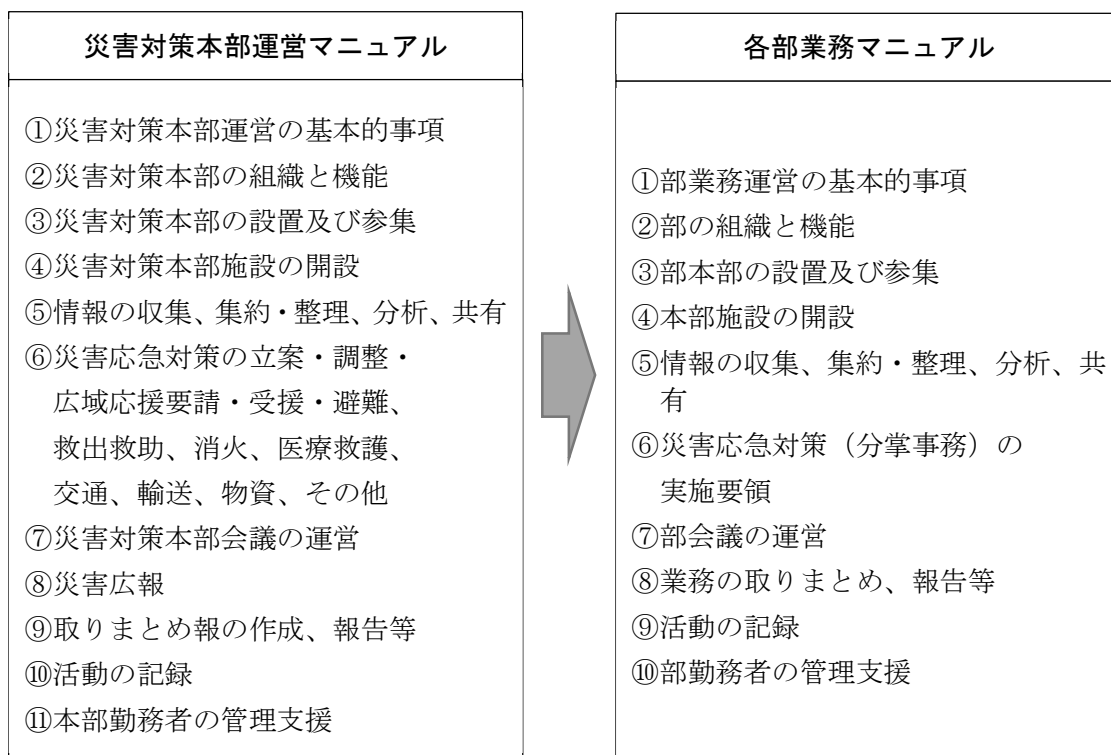
市においては、「災害時初動活動マニュアル」を作成されていることは、大変適切である。

しかしながら、現行のマニュアルは、災害対策本部の体制・配備基準、情報伝達体制、対応の考え方、実施項目等について記述されているが、災害対策本部活動において、各部・班・班員が実施すべき具体的な活動要領に関する記述がなく、災害対策本部活動全般に係る災害時初動活動マニュアルとは言いがたいと思われる。

このため、現行のマニュアルを災害対策本部の運営の基本的な考え方を記述した全般的なマニュアルと位置づけ、必要な修正を行うとともに、それに準拠した各部の業務マニュアルを作成する等、災害時初動活動マニュアルの整備・拡充が必要であると思われる。

また、作成に当たっては、「災害対策本部運営の全般的な業務の流れがイメージできること」「誰が、何を、どのように実施するのかを明確にすること」「各種報告・集計等の様式を作成し、効率的な業務推進ができること」などを主眼に作成することが必要である。

【職員行動マニュアルの構成（一例）】



また、本マニュアルには、救急・救助部隊の活動を調整する部署や災害応急対策について総合調整する部署が見当たらない。このため、市の災害対策本部として、実施すべき事項を整理して、各部・班の事務分掌の再整理が必要であると思える。

2 総括本部内の情報共有

大規模災害発生に際して自治体が迅速に対応するためには、活動の基盤となる災害対策本部の施設や備品等が整備されていることが必要となる。

高知市は、総括本部が、総合対策部、総務・情報部、応急対策部と廃棄物対策部、支部運営部、現地支援部と2つに分割されていた。本来は、総括本部として近くで活動することが望ましいが、施設の関係で難しいと思われる。

このため、統括本部としての情報共有、各部・班間の調整要領等に関する検討が必要であると思われる。

3 災害対策本部備品等の整備

高知市は、総括本部として、消耗品を整理箱に収納していることは適切である。

しかしながら、災害対策本部活動においては、次のような備品が不足すると思われるので、適時整備することが望ましい。

- 被害状況等を整理する表形式の一覧表の準備と添付する掲示板類
- 油性マジック（大・中・小、黒・赤・青・緑）、油性マジック消し、ティッシュ類等の地図作成に必要な文房具類
- 指示棒

- 高知県地域防災計画、高知市地域防災計画、各種マニュアル、ハザードマップ等の計画・マニュアル類を机上に準備
- 録画・録音装置、マルチスクリーン等のAV機器
- 5階と3階の事務室の相互連絡用の放送設備
- デジカメ（ホワイトボード等の記録用）

4 段階的な研修及び災害対応訓練の実施

大規模災害の発生に即して災害対策本部活動を円滑に実施するためには、職員が災害応急対策に関する基礎知識と災害応急対策業務の立案・調整・実行に必要な手法等を理解していることが必要であり、また、災害対策本部の活動として最も重要なことは、「市民の生命と財産を守り、被害を最小限」にするため、現状分析に基づく災害応急対策を具体的に考え、効果的・効率的に実行することである。

このため、以下のような研修・訓練を段階に実施し、個人の災害対応能力の向上と災害対策本部運営体制の整備を図ることが必要であると考えます。

①職員研修

防災・危機管理や災害対策本部運営に関する基礎的事項を理解

②グループ討議型の図上訓練

ア 災害時初動マニュアル修正のための机上検討

イ 災害対策本部活動に関する机上検討

③機能別訓練

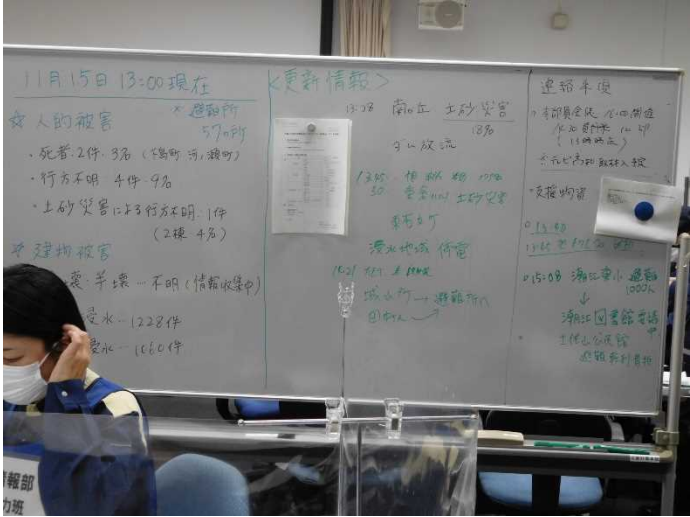
情報活動、医療・救護訓練、避難所運営訓練、物資の調達・輸送・配分訓練、災害時広報訓練、災害対策本部開設訓練等の機能別訓練（個別訓練）を、訓練度に応じて担当区分毎に実施


④ロールプレイング方式の災害対策本部開設・運営図上訓練

ア 災害対策本部事務局を主体とした災害対策本部事務局図上訓練


イ 防災関係機関等と連携した災害対策本部図上訓練

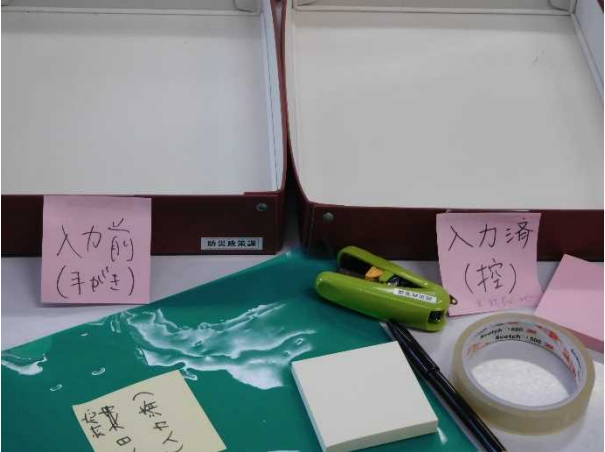
ウ 本部長以下の災害対策本部要員及び防災関係機関等が参加する災害対策本部図上訓練

評価項目	評価
<p>任務及び自己・班の業務を理解していたか。</p>	<p>訓練当日の周知事項を全員に配付するとともに、初動活動マニュアルを机上に準備して準備すべき事項や役割分担について全員に徹底を図っていたのは適切であった。</p> <p>また、事前に情報（文書）の流れについて確認し合っていたのも適切であった。</p>
<p>班（室・部）内の情報の共有は適切であったか。 （ホワイトボード・図表・地図等の活用）</p>	<p>災害情報通知票及び総合防災情報システムにより部長正・部長副を中心として、総務・情報受理班、情報入力班、広報班が一体となって活動しており、情報の共有は図られていた。</p> <p>ホワイトボードには、当初状況開始時点での被害情報が記入され、その後、更新情報や連絡事項が記入され、ホワイトボードによる情報の共有は図られていた。</p>  <p>第2回災害対策本部員会議において本部長から次の4項目が指示されている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 警戒レベル5：「緊急安全確保発令」 早急な被害状況の把握 被災者に救命・救助を第一に 市民の安全・安心のための情報提供を <p>この指示は、災害対応する上での基本となるものであるため、部員が常に目にするように、ホワイトボードに記入して徹底を図ると更によかったものと思料する。</p>

評価項目	評価
<p>関係する部署（機関）に対する報告・通報・伝達・指示は適切であったか。</p>	<p>入手した情報は、情報分析班に報告するとともに、必要に応じて総合対策部や応急対策部との連携を図っていたのは適切であった。</p>
<p>状況報告資料の作成（提供）は適切であったか。</p>	<p>広報班は、部長正・部長副の指導の下、適時に状況報告資料を作成しており適切であった。</p>
<p>その他、気付き事項 （部・災害対策本部としての活動を含む。）</p>	<p>部長正・部長副は定期的に総合対策部等において全般状況を把握していたのは良好であった。</p> 

※ 評価に際し、指摘場面の画像を務めて評価欄に添付（別添可）各部共通

評価項目	評価
<p>【総務・情報受理班】</p> <p>受理した電話情報に適切に対応（回答を含む。）し、関係部署に伝達できていたか。</p>	<p>総務・情報受理班は、災害情報通知票に記載された情報受理のポイントに基づき、伝達される情報を更に細かく、深く聞き取るという姿勢が見られ良好であった。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">情報受理のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ●通報者の住所、氏名、電話番号 ●災害発生場所 ●災害の種類及び数量（人的被害・家屋被害） ●被害の状況、規模等 <p style="margin-left: 20px;">例）約何メートルの木が何本倒れているか どのくらいの範囲（約何メートルに渡って）で冠水しているか 崩れた土砂の量（幅、高さ等）はどのくらいか</p> <ul style="list-style-type: none"> ●どのような支援を必要としているか ●その他 </div> <p>入手した情報は災害情報通知票に記入され、適切に情報入力班に伝達されていた。</p>
<p>【総務・情報受理班】</p> <p>受理した情報を高知市総合防災情報システムに入力できていたか。</p>	<p>総務・情報受理班は、当初の段階では災害情報通知票に記入するのみで、総合防災情報システムへ入力する暇がない状態であった。</p> <p>落ち着いてきてからは、総合防災情報システムへ入力されていた。</p> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">  </div>

評価項目	評価
<p>【広報班】 災害広報（市民への情報提供、総合対策班と連携した県への報告等）は適切であったか。</p>	<p>広報班は、定期的に、県総合防災情報システム、市HP、市FACEBOOK、庁内掲示板へ災害情報を掲載しており適切に報告、情報提供されていた。</p>
<p>【広報班】 報道機関との連絡調整は適切であったか。</p>	<p>広報班は、1時間に1回を基準に報道機関への被害情報の提供が実施されていた。 しかしながら、マスコミに提供する被害情報は、災害対策本部会議において了承されるか、本部長に了承を得た情報を提供することが基本であると思料され、情報の開示の体制・要領について検討する必要があると思料する。</p>
<p>【情報入力班】 総務・情報受理班より受理した「災害情報通知票」は適切に確認・提供されていたか。</p>	<p>情報入力班は、総務・情報受理班より受理した「災害情報通知票」（手書き）に基づき、総合防災情報システムへの入力し、入力した資料を印刷して情報分析班へ提供されていた。また、提供に際しては文書番号を付与し、確実性を期していたのは適切であった。</p>
<p>【情報入力班】 受理した情報（班担当分）の高知市総合防災情報システムへの入力は適切であったか。</p>	<p>情報入力班は、総務・情報受理班より受理した「災害情報通知票」（手書き）に基づき、総合防災情報システムへ確実に入力していた。</p>
<p>その他、気付き事項</p>	<p>情報（文書）の流れに際しては、文書トレーを準備して、入力前、入力済、対応済、未対応、指示済後日対応等に区分して情報（文書）を管理していたのは適切であった。</p> 

評 価 項 目	評 価
	

評価項目	評価
<p>任務及び自己・班の業務を理解していたか。</p>	<p>地域防災計画・水防計画の班別・部局別業務分担表及び災害時初動活動マニュアルの各班の役割と活動内容についての理解を基に、具体的な情報共有・連絡調整活動を遂行していた。</p>
<p>班（室・部）内の情報の共有は適切であったか。 （ホワイトボード・図表・地図等の活用）</p>	<p>ホワイトボードに、クロノロジー（時系列対応記録）の作成・更新を継続し、業務の進捗管理及び案件別対応策の検討・調整に有効活用されていた。</p> <p>災害対策用地図に、越水・浸水地域、土砂崩壊場所、雨水ポンプ場、排水機場を表記するとともに、被害状況等を付記して情報共有及び対策検討に活用されていた。</p> <p>公共下水道計画図（雨水）、ポンプ場配置図、ポンプ稼働状況表等を掲示し、現況把握及び対策検討に活用されていた。</p>
<p>関係する部署（機関）に対する報告・通報・伝達・指示は適切であったか。</p>	<p>道路等の保全及び応急復旧並びに市街地等の排水対策に関する事項について、高知県庁関係部署及び指定地方公共機関である（一社）高知県建設業協会に、連絡・調整を継続していた。</p>
<p>状況報告資料の作成（提供）は適切であったか。</p>	<p>指定されている「災害対応報告様式」に、14時30分現在及び16時現在のそれぞれの状況（報告事項等）・今後の対応について整理・提出され、会議（会同）における部長の報告に活用されていた。</p>
<p>その他、気付き事項 （部・災害対策本部としての活動を含む。）</p>	<p>応急対策部が上下水道局及び都市建設部の職員で編成されていることは、災害時初動活動マニュアルに規定されている、部・室・各班の役割と活動内容を具現するため、極めて有効に機能發揮していると思われた。</p>

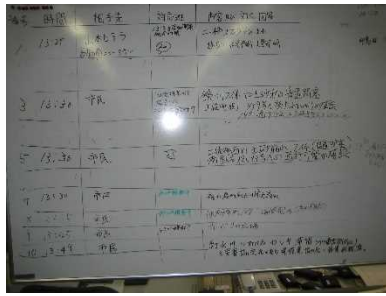
※ 評価に際し、指摘場面の画像を務めて評価欄に添付（別添可）各部共通

応急対策部

担当者 渡辺雅巳

評価項目	評価
<p>【現地対策総務班】 現地対策室各班との連絡・調整は適切であったか。</p>	<p>現地対策室に編成される応急対策第1～5班、道路管理班（いずれも設想）に、浸水・冠水及び土砂崩壊等に伴う道路等の保全及び倒木等の復旧等について、具体的な連絡・調整に努めていた。</p>
<p>【現地対策総務班】 災害対策本部内各部との情報共有、連絡調整は適切であったか。</p>	<p>入手した被害情報等について、総合対策部、総務・情報部、廃棄物対策部、現地支援部（避難所・救援物資）等に通知するとともに連絡調整に努めていた。</p>
<p>【現地対策総務班】 クロノロジー（活動記録）は整備されていたか。</p>	<p>ホワイトボードに、クロノロジー（時系列対応記録）を作成・更新を継続し、業務の進捗管理及び案件別対応策の検討・調整に有効活用されていた。 PCを活用し、ホワイトボード記載事項を記録・整理していた。</p>
<p>【浸水対策総務班】 浸水対策室各班との連絡・調整は適切であったか。</p>	<p>浸水対策室に編成される排水施設班、河川管理班、ポンプ設備管理班（いずれも設想）に、市街地等の排水対策、特に浸水状況の情報共有、ポンプ設備の管理に関する具体的な連絡・調整に努めていた。</p>
<p>【浸水対策総務班】 災害対策本部内各部との情報共有、連絡調整は適切であったか。</p>	<p>「災害対応報告様式」による、14時30分現在及び16時現在の報告以外の、随時の情報提供等は確認できなかった。</p>
<p>【浸水対策総務班】 クロノロジー（活動記録）は整備されていたか。</p>	<p>ホワイトボードに、クロノロジー（時系列対応記録）の成・更新を継続し、業務の進捗管理及び案件別対応策の検討・調整に有効に活用されていた。 PCを活用し、ホワイトボード記載事項を記録・整理していた。</p>
<p>その他、気付き事項</p>	<p>現地対策室及び浸水対策室の各2名（室長正・副）は、各総務班に具体的な業務指示・指導を継続するとともに、部長正に適時に報告・意見具申を確行する等、積極・真摯に部長正を補佐し、組織的活動に寄与していた。</p>

【情報の共有：ホワイトボードの活用】



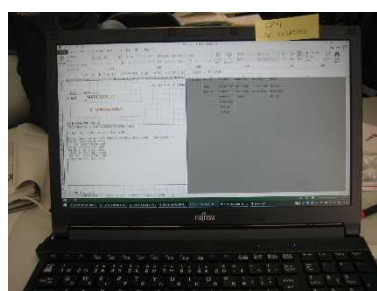
【地図の活用】

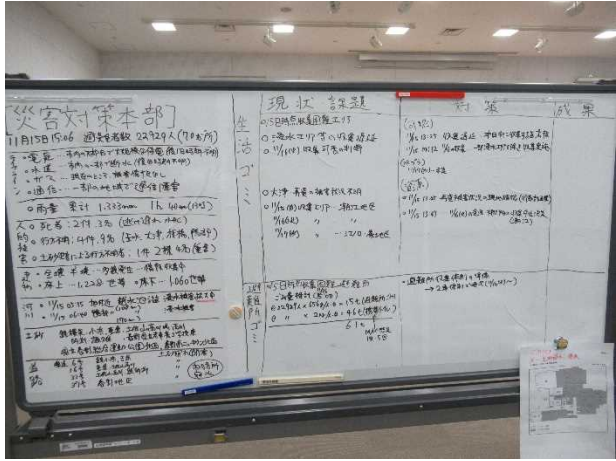
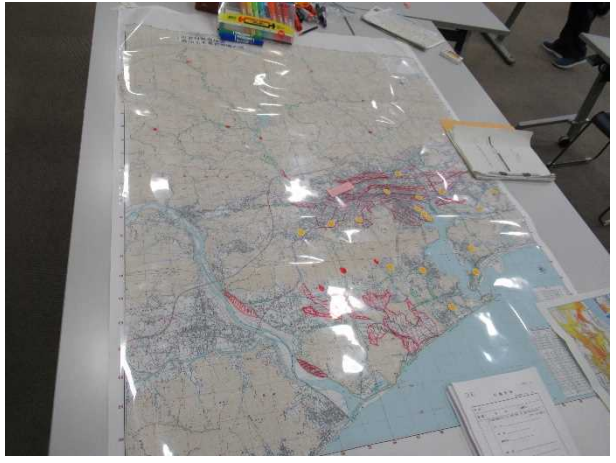


【関係資料等の掲示・活用】



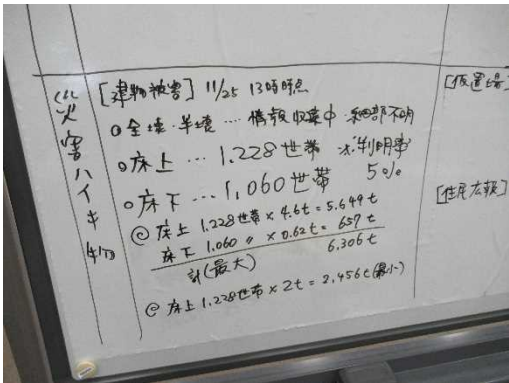
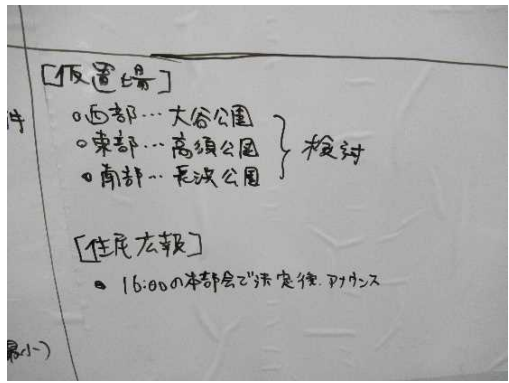
【P S入力・様式の活用】



評価項目	評価
<p>任務及び自己・班の業務を理解していたか。</p>	<p>現場対策室及び廃棄物対策総務班はシステム操作者、クロノロ記入、情報収集、地図記入及びそれぞれ室長及び班長により対策立案が検討されていたのは適切でした。</p>
<p>班（室・部）内の情報の共有は適切であったか。 （ホワイトボード・図表・地図等の活用）</p>	<p>1 ホワイトボードは、廃棄物の品目等ごとにクロノロジーが作成され、理解が容易にされていたのは、適切でした。</p>  <p>2 地図には初期情報の浸水地域、廃棄物集積予定場所の公園等の表示および道路被害の状況が展開され、廃棄物集積場所の予定位置の検討を容易にしていたのは適切でした。</p> 

評 価 項 目	評 価
<p>関係する部署（機関）に対する報告・通報・伝達・指示は適切であったか。</p>	<p>他の部署に対する報告などの行動は見られませんでした。</p> <p>特に廃棄物集積所の候補地決定段階では、県警などへの通報が必要と思われます。</p>
<p>状況報告資料の作成（提供）は適切であったか。</p>	<p>状況報告の作成は見られませんでした。</p>
<p>その他、気付き事項（部・災害対策本部としての活動を含む。）</p>	<p>庁舎5階に位置していた総合対策部や総務・情報部に直接確認に行くという行為は見られませんでした。システムで確認するのみではなく、直接5階に赴き最新の情報や業務の重点は何かを確認すること、今後調整が必要となる部署へのコンタクトもしておく必要があると思われます。</p>

※ 評価に際し、指摘場面の画像を務めて評価欄に添付（別添可）各部共通


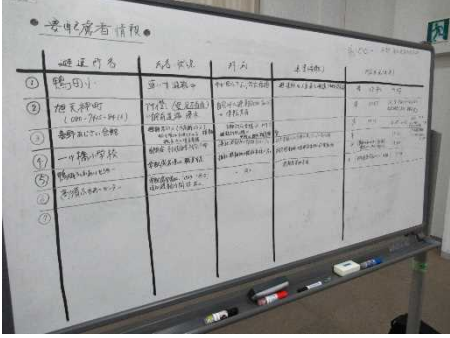
評価項目	評価
<p>【廃棄物対策総務班】 現場対策室各班との連絡・調整は適切であったか。</p>	<p>訓練は、現場対策室のみの参加であったが、同じ場所に位置していたことから、情報を共有しつつ連携して対策立案ができていたのは適切でした。</p>
<p>【廃棄物対策総務班】 受理した情報の処置は適切であったか。</p>	<p>班員2名で、システムでの土砂・浸水地域の被害状況を確認し、適時にプリントアウトし情報を共有していたのは適切でした。</p>
<p>その他、気付き事項</p>	<div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;">   </div> <p>訓練間では、被害情報を確認しつつ、廃棄物集積場所を3か所に絞り、16時の本部会で決定後アナウンスとした一連の業務流れは適切と思われます。</p> <p>初期情報の把握段階においては、床上浸水1,228世帯（判明率5%）でゴミの予想量を算定し、この3か所の集積所に絞ったが、当然今後廃棄物の量のはるかに増大することは、予期していたと思われます。</p> <p>しかしながら、集積しきれない場合の他の集積場所の候補地検討や、更には、この3か所集積所の開</p>

評 価 項 目	評 価
	<p>設・運営要領に関する検討・処置が最後までなされていなかったのは一考を要すると思われます。</p> <p>これについて、特に、検討等を要すると思われる事項は、次の内容です。</p> <p>3か所の集積所における勤務員（部のマニュアルでは概ね14名体制となっているが、実際には最低限2交代制にすることが必要であり、1か所の所要は28名、3か所で計84名が必要となります。また、細かな仕分けが不十分な場合、更に仕分け作業員も必要になる。）の確保をどうするのかの検討が必要。</p> <p>運営に必要な資器材、油圧ショベル等の重機の確保の手配も必要。</p> <p>予想される集積所周辺での交通渋滞への対応について県警に依頼することが必要。</p> <p>浸水した世帯から出されるであろう災害廃棄物の状況（浸水で自家用車が使えない世帯は歩道上に分別なく積み上げることが過去の災害事例）の予測に基づく、具体的な回収の要領を決めておくことが必要。</p> <p>災害ボランティア（家の片づけ支援）に対する災害廃棄物（生活ゴミ含む）の分別要領や集積に関するボランティアセンターでの説明の準備の検討が必要。</p> <p>公園の利用制限、環境保全の処置に関する関係部署との調整・依頼が必要。</p> <p>ゴミ回収業者の被災の有無の確認が必要。 等があげられます。</p> <p>アナウンスした以降は、水が引き次第、市民（被災していない市民も搬入することは過去の災害事例であり）による災害廃棄物（生活ごみが混入）の搬入が始まることも予想されることから、早期から開設準備・運営に関する検討、人・資機材に関する関係する部署との調整に着手することが重要と思われます。</p>


評価項目	評価
<p>任務及び自己・班の業務を理解していたか。</p>	<p>初期情報に基づき、地図やホワイトボードの準備を短時間で整齊と実施するなど、これまでの訓練・研修の積み重ねや直前説明会等を通じて支部運営部や支部運営総務班の業務を理解していると思われた。</p> <p>写真1</p>
<p>班（室・部）内の情報の共有は適切であったか。 （ホワイトボード・図表・地図等の活用）</p>	<p>○支部運営部長、副部長の統制のもと、支部運営総務班長以下がホワイトボード、地図や「支部管内の災害対応等」の様式により、部・班内の情報を適切に共有していた。</p> <p>写真2</p> <p>●総務・情報部の災害情報通知票のような電話受け票がないために正確な情報の記録・保管がやや不十分であった。</p> <p>○ホワイトボードは避難所に関する情報とその他の災害状況や特記事項を3つの支部に区分して見やすい表で整理しているのは大変良かった。</p> <p>写真3</p> <p>●ただし、ホワイトボードに直接書いているため、情報が多くなると表がすぐ一杯になることが予想される。ビニールオーバーレイやシートを活用して長期間の使用に耐え得る工夫が必要と感じた。</p> <p>○地図に土砂崩れ、浸水等の被害状況をコンパクトに記載していたのは良かった。</p> <p>●ただし、凡例や何日何時現在の情報かを表示することが望ましい。</p> <p>写真4</p>
<p>関係する部署（機関）に対する報告・通報・伝達・指示は適切であったか。</p>	<p>○救助機関リエゾンに対する行方不明者の救助要請、現地支援部各班に対する避難所の情報、要配慮者の情報、救援物資の情報などを迅速に情報伝達して対応していたのは適切であった。また応急対策部等に市境界外からの道路状況などを細部把握して孤立しているか、どうかを確実に把握していたのは適切であった。</p>
<p>状況報告資料の作成（提供）は適切であったか。</p>	<p>○支部運営部長の指示により、総務・情報部から示された様式に基づき、男女別人数、要配慮者の有無など必要な避難者の情報等を先行的に把握して、本</p>

評 価 項 目	評 価
	<p>部会議の時間までに状況報告資料を作成していたのは良かった。</p> <p>●部長自ら状況報告資料を作成していたが、作成者を指名し、組織的に業務を行う必要性を感じた。</p>
<p>その他、気付き事項 (部・災害対策本部としての活動を含む。)</p>	<p>●総務・情報部や応急対策部には市域内の情報が集約されているが、3階の各部との情報共有は防災情報システムのみで、不十分ではないかと感じた。通行止めやう回路等の道路情報など、各部が必要とする重要な情報は、整理した情報として共有する必要性を感じた。</p> <p>●統括本部として情報記録（電話受け）用紙を統一して準備し、記録・保管、情報共有に使用されていなかったのは検討を要する。定型用紙であれば、必要な情報を短時間に正確に把握する一助となるばかりでなく、部・班内や統括本部内での情報共有が漏れなく、迅速に行うことができるとともに、処置の確認や記録・保管が容易となる。</p> <p>●統括本部には、消防局からの部局連絡員はいるが、救助活動等を総合調整する機能がないのは、検討を要する。消防局には、被害情報などの救助活動等に関する情報が消防団や自主防災組織、市民などから多く寄せられ、自らも救助活動等に関する情報を収集する能力を有する。また警察や自衛隊などの応援を受ける際には、消防局の活動を中心に災害対策本部の活動と応援部隊の活動を総合調整する必要がある。このため、統括本部内に救助活動等の機能を有する部・班等を設置し、災害対策本部の活動を強化、一体化する必要があると考える。</p>

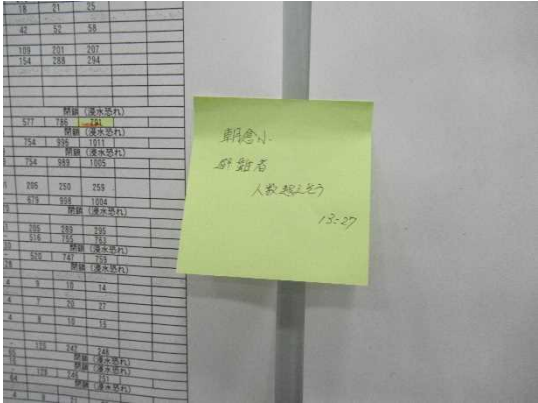
評価項目	評価
<p>【支部運営総務班】 各支部運営室との連絡・調整は適切であったか。</p>	<p>○各支部運営室（コントローラー）との連絡・調整に齟齬は見受けられなかった。</p>
<p>【支部運営総務班】 災害対策本部内各部との情報共有、連絡調整は適切であったか。</p>	<p>○避難者及び要配慮者の情報共有やブルーシートの調達に関する連絡調整を現地支援部と、また孤立が危惧される地域への市域外からの道路情報を応急対策部と積極的に連絡調整するなど適切であった。</p>
<p>【支部運営総務班】 各支部運営室への支援（要請に対する処置を含む。）は適切であったか。</p>	<p>○ブルーシートの要請については、短時間に現地支援部と調整して各支部運営室に配送したのは適切であった。</p> <p>●要配慮者支援班への支援要請については、当該班と速やかに調整を開始したが、福祉避難所の開設が優先されるため緊急性がない場合は支部での処置となった。また支部独自の支援でも浸水地域であるため要請には応えられなかった。浸水地域での要配慮者に対する支援については、現地支援部に加え、応急対策部や総合対策部とも更に対応を協議する必要があると感じた。</p>
<p>【支部運営総務班】 クロノロジー（活動記録）は整備されていたか。</p>	<p>○支部運営部で定めた様式：「支部管内の災害対応等」でメモ形式ではあるが、活動記録として整備されていた。</p> <p>写真5</p> <p>●今後情報記録（電話受け）用紙を作成し、セットで保管すれば更に正確な活動記録になると考える。</p>
<p>その他、気付き事項</p>	<p>●3階の各部（班）の机上に準備された事務用品に地図オーバーレイ用の3色以上の油性マジックや消去液がなかったため、各部等の職員は地図の記載に苦勞していた。またホワイトボードを有効に活用するため、3色以上のホワイトボードマーカーの他、カラーマグネット等を準備するなど各部の意見を聴取して事務用品を整備することが望まれる。</p>



評価項目	評価
<p>任務及び自己・班の業務を理解していたか。</p>	<p>各班は、自己の任務を理解し、業務を実施していた。班員は、不明な点は部長正・副に確認しつつ、業務を実施していたのは良かった。訓練開始前の準備時間を活用し、各人の役割を確認・徹底し、最終的に意志統一を図っていたのは良かった。</p>
<p>班（室・部）内の情報の共有は適切であったか。 （ホワイトボード・図表・地図等の活用）</p>	<p>①ホワイトボードの活用 ホワイトボードについては、総務班には状況付与が集中し、ホワイトボードの記入は、なかった。</p>  <p>総務班以外の班については、表形式でホワイトボードに記入し、「見える化」を図っていた。</p>  <p>②地図の活用 当初地図に、浸水状況、避難所の位置等記述していた。一部の班では付箋紙等を使用し地図上に貼付していたが、全般的にあまり活用されていなかった。地図を活用しようとする意欲は当初、見受けられたものの、時間の経過とともに地図への関心は薄れていった。これは業務多忙と考えられるが、情報の視覚化・班内の認識の統一などのためには有効であるので、地図の使用に慣れるよう、機会を捉えて訓練をしてもらいたい。</p>

評価項目	評価
<p>関係する部署（機関）に対する報告・通報・伝達・指示は適切であったか。</p>	<p>各避難所からの避難者数・要配慮者数の増加に対する状況に対し、報告・通報・伝達・指示は、行われていたが、今後の状況に対する検討がなされなかった。新たな避難所の開設は、被害拡大地域・避難者数増加などの状況に応じ、早期から検討し、総合対策部に意見を提出し、先行的に準備を進めることが重要である。</p>
<p>状況報告資料の作成（提供）は適切であったか。</p>	<p>16 時からの本部員会議資料については、各班とも班員へ指示し報告資料としてまとめていた。会議時間・報告内容は、全班員へ徹底すべき事項であるので、今以上に業務が多忙となると忘れる恐れがあるので、ホワイトボードに最低限「会議時間・会議資料提出時間・報告内容」を明記しておく必要がある。</p> <p>業務の対応に追われ、報告内容を整理する時間が少ないため、定型化しておくと思われる。</p>
<p>その他、気付き事項（部・災害対策本部としての活動を含む。）</p>	<p>①数時間で終了するため、業務予定表の必要性を感じないためか、それは見受けられなかった。重点事項等示し、班員に徹底することも一案である。</p> <p>②自己の班の業務に対する認識はあったものの、総務班については、要配慮者支援班の業務内容に対する認識が薄いと感じた。「要配慮者の福祉避難所」に関する情報については、要配慮者班への情報提供が当初されていなかった。</p> <p>③地図上のオーバーレーに記入するペンがホワイトボード用のペンであった。触ると跡が消えてしまうため、訓練準備の段階で部長正による注意事項として徹底していた。油性ペン・消去ペン・ティッシュペーパー等を準備すると安心して地図上にマーク出来ると思われる。</p> <p>④地図上に避難所位置に番号を付した直径 5mm のラベル（統制されている）を貼付していたが、小さいため、一部の班では付箋紙を貼付していた。小さいとの声も聞こえたため、直径 1cm 使用で検討したらよいと思われる。</p>

評 価 項 目	評 価
	

※ 評価に際し、指摘場面の画像を務めて評価欄に添付（別添可）各部共通

評価項目	評価
<p>【避難所総務班】 各避難所の避難状況の確認、情報提供、活動支援等は適切であったか。</p>	<p>各避難所の状況をホワイトボードに表形式で準備されてはいなかった。A3版の用紙を貼付していた。電話対応に追われ、記述する余裕がない状況であったため、逆に表形式で記入していると情報が止まってしまったかもしれない。人員が少ないことが原因かもしれないので、今後人員については検討されたい。ただ、避難所オーバーに関する重要な情報等については、ホワイトボードに赤字等で全員への「見える化」が必要であったと思われる。付箋紙では剥がれる恐れがある。</p> 
<p>【避難所総務班】 各避難所で必要とする救援物資の確認、受傷者への対応など現地支援部各班との連絡・調整は適切であったか。</p>	<p>当初情報の選別は出来ていなかった。これは、他班の業務内容の理解不十分であったと推測する。訓練開始前、訓練結節時に班長会議等実施し、認識の統一を図ることが必要と思われる。</p>
<p>【救援物資班】 避難所総務班を通じた各避難所における救援物資の必要数の把握は適切であったか。</p>	<p>準備の段階から重要とする2箇所の給食センター（長浜・針木）の備蓄物資数量の一覧表及び物資拠点として予測される2箇所（くろしおアリーナー・春野）の一覧表をホワイトボードに記入していた。部長正は、上記の内容を地図上に展開された被害状況から今後の予測される展開を説明し、認識の統一を図っていた。この認識の統一が、事後の状況付与の推移に班員は、適時・適切に処置していた。</p>

評価項目	評価
	
<p>【救援物資班】 救援物資の確保及び供給に関する検討は適切に行われていたか。</p>	<p>必要時には班全員で処置事項などについて検討されていたのは良かった。16時からの本部員会議前に現在の物資状況の取りまとめを総務班に提出し事後の状況に対する処置について調整していた。</p> 
<p>【要配慮者支援班】 各避難所及び地域住民と連携した要配慮者の支援は適切であったか。</p>	<p>当初、総務班が福祉避難所開設上申ということで要配慮者に関する情報を要配慮者班に情報共有していなかった。支部運営部からの問合せ等から総務班に積極的に情報収集に行くことで以後、これらの情報共有が図られた。各状況に対して、部長正の指導の下、全員で検討し、要配慮者に対する支援を実施していた。</p>
<p>【要配慮者支援班】 福祉避難所の開設に係る検討は適切であったか。</p>	<p>福祉避難所の開設については、総合対策部を通じて本部員会議に上申することを、要配慮者支援班の業務ポイントであることを承知し、総合対策部へ福祉避難所の開設上申について調整を実施していた。</p>
<p>その他、気付き事項</p>	<p>①時系列活動記録表というものは無く、情報についてはシステムへの入力に努めていた。情報記録用紙というものはなく、主として付箋紙に記入していた。付箋紙を縦に並べ維持しようとしていた。情報を記入する用紙（項目を整理）等があれば、記入手順も明確となり、処置・未処置が明確化され、整理出来るものと思われる。</p>

評 価 項 目	評 価
	<div data-bbox="759 264 1262 568" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="639 577 1377 712">②処置表を活用し、処置済・未処置を区分していたが、区分標識が無いため、一時、手間取っていた。</p> <div data-bbox="759 734 1273 1115" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="639 1153 1377 1478">③机上の整理・整頓が良好な班と不良な班が見受けられた。特に状況付与の入る総務班については、業務多忙となり、整理・整頓については難しかったと思われる。長時間が予測される場合、思考は薄れがちで間違いやすくなるため、机上の整理・整頓は、文書等の紛失防止につながると思うので日頃から整理・整頓に心掛けてもらいたい。</p> <div data-bbox="759 1518 1281 1906" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="890 1917 1158 1955">15 : 27 現在の状況</p>

訓練振り返り結果

1 総合対策部

- ①総合対策班
- ②情報分析班

2 総務・情報部

3 応急対策部

4 廃棄物対策部

5 支部運営部

6 現地支援部

- ①避難所総務班
- ②救援物資班
- ③商工観光部
- ④要配慮者支援班

7 部局連絡員

訓練振り返りワークシート

部名：総合対策部 総合対策班 _____

検 討 項 目	検 討 内 容
各種情報収集、整理、情報伝達（部内・外）に関する良好点、課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入ってくる情報対応に追われ、最新の情報を他の部に円滑に伝達することができなかった。また、どの情報をどこへ伝達すべきかも判断できないことが多かった。 ・ 自らの情報収集ができなかった。 ・ 処理すべき優先順の判断が遅れた。<u>受けた情報を短時間での確に伝達する仕組みが必要。</u> ・ 受けた内容を記載する様式に、主な情報共有先や対応の有無を記載するようにはどうか。 ・ 本部員会議の資料内容が十分なものではなかった。
計画、マニュアル等の改善・反映事項、要掲載事項等について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 過去の災害対策本部次第や活動記録、訓練検証内容の事前共有 ・ 主な対応例
地図、ホワイトボードの活用状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 受けた情報をすべてホワイトボードに記入したため、報告者も記入者も追われていた。情報を精査し、記入する内容を絞る、色分け等で、見やすい内容とする等事前に決めておくべきだった。 ・ ボードへの記入者を固定したため、情報を受けた者が記入者への伝達に手間取った。 ・ 併せてデータ入力もしていたが、二度手間となっていたため、ボードとデータの役割についても検討しておくべきだった。 ・ 整理が間に合わない場合は、一旦情報収集のメモを貼る対応でもよかったかもしれない。
その他の課題、意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全体的に人手が足りなかった。 ・ 事前の役割分担がかえって臨機応変に動くことができない理由の一つでもあった。 ・ 細かい動きが分からず常に判断に迷った。 (<u>事前研修が必要</u>) ・ 事前にマニュアル等を見ていても、いざという時の判断ができないことが多かったため、訓練を含めた実践による経験は必須であると感じた。 ・ 付与された内容の意図とどうすべきだったかの振り返り研修が必要（同じことを繰り返さないために）

訓練振り返りワークシート

部名：情報分析班

検 討 項 目	検 討 内 容
各種情報収集、整理、 情報伝達（部内・外）に 関する良好点、課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・各部・班との情報共有や伝達手段，連絡方法のルールを明確にする必要がある。 ・情報受理班からの情報を他の部や班へ回した際，すでにその部や班に別から連絡が来ていた。どういう流れで他から連絡が来ているのか分からず，そもそも情報分析班が，他の部や班へ連絡を回す必要があるのか（情報受理班が直接連絡を回せばいいのではないか）と感じた。
計画、マニュアル等の 改善・反映事項、要掲載 事項等について	<ul style="list-style-type: none"> ・マニュアルと実務の整合性の確認が必要である。
地図、ホワイトボード の活用状況	<ul style="list-style-type: none"> ・油性マーカーが各色 2 本は欲しい。 ・凡例は市のベースを作って細かく取り決めたほうがよい。 ・オーバーレイへ書き込む情報を入手する手段や，どこから情報を得ればよいのかわからなかった。 ・本部員会議でどのようにオーバーレイが活用されているのか，どういった情報が必要とされているのか分かっていたら，業務がしやすかったと思う。
その他の課題、意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・オーバーレイの書き方や他部・班との連絡等，正解はないのかもしれないが，ひとつあるいはいくつかの模範例の研修が必要である。 ・他部・班も含め，全体に対して，それぞれの業務の実務例や連携の仕方等の例を共有する必要がある。 ・振り返りの内容や意見をただ紹介するだけでなく，どうすればよかったかも含めて研修してほしい。

訓練振り返りワークシート

部名：総務・情報部

検 討 項 目	検 討 内 容
<p>各種情報収集, 整理, 情報伝達 (部内・外) に関する良好点, 課題等</p>	<p>【総務・情報受理班】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 救助を要するケースは迅速に情報伝達ができていた。 ・ 緊急通報の際のオペレーションが把握しきれていなかった。 ・ 転送先があやふやなケースが散見された。内容に応じてどこに繋げばよいか浸透していない。特殊なケースになった場合は対応に不安がある。基準をはっきりさせることと、業務への習熟が必要と思われる。 ・ 絶えず電話を受けているので、連絡事項をアナウンスされても把握できない。 ・ GIS のエリア入力が難しかった。 ・ 他の班に詳細を伝えたり、対応方法を検討したりする時間がなかった。 <p>【情報入力班】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 電話受理→情報入力→対応済みの流れ（箱で作成）が、明確で迷うことがなかった。 ・ 上記の形をマニュアル化したり、事前の研修で班員に周知できたらいい。 <p>【広報班】</p> <p>〈良好点〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 手書きメモについて事前に必要と思われる項目（受理した情報の相手、想定される情報の内容）を記載した簡易様式を作成し、受理した際の情報ぬかりがないように準備した。 <p>〈課題等〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 情報伝達方法が周知（統一）されておらず、紙・放送・ホワイトボード（クロノロジー含む）など様々な媒体で行われていた。この情報は「誰に」「何の目的で」提供されている情報かが分からないと、どの情報が確定しているのか、情報は重複しているのかなどを判断することが難しかった。 ・ 受理した情報の流れについて、広報班も含め、全体的に意識されていないように感じた。（例：情報受理班が総合対策部に伝えた内容が、そのまま広報班へ。総務・情報部に判断・情報伝達を求められるケース。）

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経験知のない未経験者が情報に優先順位をつけ整理にするためには、整理するための判断基準（視点等）が必要だと感じた。基準がないため、部長正・副に情報が集中してしまう結果となり、指示命令系統が機能せず全体の流れが停滞していた。
<p>計画、マニュアル等の改善・反映事項、要掲載事項等について</p>	<p>【総務・情報受理班】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 臨機応変な対応は必要であるが、ケース別に転送先を決めておくなど、一定の計画化・マニュアル化は必要だと思う。 ・ 状況付与班がどのようなルールで訓練に臨んでいるのかわからないが、こちらが聞いたことに対する情報が返ってこない（「年齢・家族構成がわからない」「自宅そばの被災現場を見たとの通報なのに、場所が電車通の北か南かもわからない」といった不自然な返答等）ことが多々あり、改善した方がよいと思う。 <p>【情報入力班】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 意見なし <p>【広報班】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 広報班の業務内容について、経験知やパソコンのフォルダ内のメモで行われており、未経験者は業務を遂行する上で、自分で考え行動・判断することが難しかった。 <p>＜広報班のマニュアルの改善・反映事項＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 災害対策本部の全体像の把握 ・ 定時報告に掲載する情報の収集・作成方法 <ul style="list-style-type: none"> システムから抽出した情報の精査方法、必要な情報はどこで収集できるのか。 ※ 収集する相手型のマニュアルにも広報班への情報提供について記載 ・ 定時報告の内容 <ul style="list-style-type: none"> 現状の被害状況（通報及び要請件数）・避難所開設状況で良いのか。災害規模や種類によって変更する必要性はないのか。現在提供している通報等の情報は信憑性があるのか、優先順位として高いのかどうか疑問に感じた。 ・ 定時報告の共有方法（公開資料を対策本部内で共有する相手） ・ 想定されるマスコミからの依頼に対する対応の判断フロー <ul style="list-style-type: none"> 別途判断が必要となるケースもあるが、想定されるものについては事前に用意することにより、迅速な対応につながる（例：被災現場撮影許可、避難所の撮影許可、定時報

	<p>告以外の情報提供依頼など)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 災害対策本部会議への災害対応報告様式 作成のタイミング、総務・情報部が何を報告するか、事前に整理しマニュアルに掲載しておくことにより、作成が迅速に行うことができる。
<p>地図、ホワイトボードの活用状況</p>	<p>【総務・情報受理班】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地図を活用できないので、町名・番地が明確でない場合、土地勘のない地域の建物や道路がすぐに特定できなかった。 ・ 地図やホワイトボードが見えない位置にあったため、情報共有できず、電話での問合せにも即答できなかった。 <p>【情報入力班】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 意見なし <p>【広報班】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ マスコミへの定時報告した公開資料をホワイトボードに貼りつけ共有（ただし、貼り付けていることの周知が不十分のため、活用されていたかは不明）。 ・ 最新情報について記載し共有を図ったが、情報が過多となると追いつかなくなった。
<p>その他の課題、意見等</p>	<p>【総務・情報受理班】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 訓練では人員不足で対応しきれていなかった。人員の配置と業務の見直し（情報受理は電話に専念し、入力事務を分離する）が必要である。 <p>【情報入力班】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ マイクで対応済と放送されたものについて、システムでの「対策済」の入力ができなかった。システム上「未対応」となっているもので、マイクで対応済みと放送されたものについては、情報入力班にも見えるホワイトボード等で、全体で共有する必要があるのでは。 ・ 細かいニュアンス等が伝わりにくい時があるので、電話を受けた人が入力するほうがよい。 ・ 「総合防災情報システム」の災害の種類項目について、「その他」の場合が多く、「これは何？」と聞かれる時があるので、詳細を記載できる備考欄があればいい。またステータスについては、「未対応」の次が「対策済」や「指示済」なので、入力して対策班が対応中のものは「入力はしたけど今どこにあるのか？」となる。「対応中」のステータスがあればいい。

	<p>【広報班】</p> <p>〈機器等について〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コピー機, プリンターの数が少なく, 待ち時間が生じていた。 ・ 手書き, 紙ベースでの情報伝達が中心となっていたが, 「共有ができない」「文字等が見づらい」など課題を感じた。情報伝達及び情報共有ツールとして, 行政事務支援システムの掲示板機能を有効活用することや, 「LoGo チャット」を導入する等の方法を検討していただきたい。 ・ 各種様式を共有するため, 専用のファイルサーバー領域を準備する等の検討を行っていただきたい。 <p>〈情報について〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 受理した情報の分類について, 各担当の個人の感覚にゆだねられている部分があり, 記載されている詳細と分類が一致しないケースがあり, 精査に時間を要した。 <p>〈今回の訓練に関して〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ システムからの情報を前提としている定時報告について, システムが使うことができないため, 実際には発生しない業務(手集計等)があった。 ・ 事前に情報提供方法等を確認したが, 相手方にこちらが必要とする情報を十分伝わっておらず, 提供された情報を生かせなかった。
--	---

訓練振り返りワークシート

部名： 応急対策部

検 討 項 目	検 討 内 容
<p>各種情報収集、整理、 情報伝達（部内・外）に 関する良好点、課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 部内での情報収集と整理，対策立案を行い，その内容を本部会にあげることに終始してしまった。他部が必要としている情報が把握できていないため，外部への伝達や連携が全くできていなかった。 ・ 各班で整理すべき情報，他部に伝達すべき情報と伝達先，他部から収集したい情報などを整理し，マニュアルに明記すべきである。 ・ 情報受理班から入る情報で，1枚の紙にがれき撤去など応急対策部で処理すべき情報と，要避難者対応，マスコミ対応など他部署で対応すべき情報が混在していたため，処理後に他部署に伝達する必要があったので，最初から，情報受理班で案件ごとに対応部署を振り分けた上で，両部署に伝達してほしい。 ・ 気象情報について，今後の見通しを問い合わせても提供がなされなかった。強い雨の継続時間が見通せないと対策立案が困難となる。
<p>計画、マニュアル等の 改善・反映事項、要掲載 事項等について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各班で整理すべき情報，他部に伝達すべき情報と伝達先，他部から収集したい情報などを明記すべきである。 ・ 他の関係機関や対策部との情報共有や調整する役割が誰かを明記すべきである。 ・ 鏡，土佐山，春野における情報収集や応急活動等について，支部運営部と応急対策部の役割分担を明記すべきである。
<p>地図、ホワイトボード の活用状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地図は，浸水区域や土砂崩れなどの被害状況を記載していたが，排水可能時間の見込みや通行可能である道路などの整理が必要と感じた。 ・ 情報分析班が作成している地図に記載してもらうべき内容が整理できていなかった。 ・ 付かないマーカーが多数あったため，備品管理が必要である。

その他の課題、意見等	<ul style="list-style-type: none">・ 訓練であったため、事前に資料の準備をして臨んだが、実際の災害発生時を考えると、災対本部に資料（ポンプ台帳、燃料備蓄記録、下水道 BCP 等）を備えておく必要がある。・ 災対本部でもポンプ場監視システムを見ることができるよう設定しておく必要がある。・ ポンプ場監視システムの改修時には、残存燃料を把握できるようにすることが望ましい。
------------	---

訓練振り返りワークシート

部名：廃棄物対策部

検 討 項 目	検 討 内 容
<p>各種情報収集、整理、情報伝達（部内・外）に関する良好点、課題等</p>	<p>【良好点】</p> <p>○総合防災情報システムに情報が入力されるため、情報の伝達や更新が迅速にできた。</p> <p>【課題】</p> <p>○システムの操作方法で分からない部分があり、事前にマニュアル等を読んでおく必要がある。</p> <p>○総合対策部の情報分析班から情報を紙ベースで置かれたが、情報共有なのか、対応を求められているのか明確でなかった。</p> <p>○システムの住家被害情報では、床上・床下浸水等の情報が件数でしか把握できず、初期情報の「世帯数」から更新できなかった。災害廃棄物等の発生量を推計するために必要な情報となるため、限られた情報から推計する方法の検討も必要と感じた。</p> <p>○現場の廃棄物収集班（今回の訓練参加なし）との情報共有の流れ等を確立しておくことが重要だと感じた。</p>
<p>計画、マニュアル等の改善・反映事項、要掲載事項等について</p>	<p>○廃棄物対策部としては、今回の訓練のフェーズ以降で、仮置場の設置や災害廃棄物の排出方法の住民広報など、応急対策活動が本格化するため、平時のうちに必要な準備や各業務のマニュアル等の作成を検討しておく必要がある。</p>
<p>地図、ホワイトボードの活用状況</p>	<p>【良好点】</p> <p>○ホワイトボードでは、生活ごみ、避難所ごみ、し尿、災害廃棄物の4項目に分けて、現状、課題、対策を整理したので、知識が少ない職員にも分かりやすかった。</p> <p>○各種被害情報の内容によって、収集運搬ルートを検討する必要があるが、地図上で整理できたことで、正確にルートを決めることができた。</p> <p>【課題】</p> <p>○地図、ホワイトボードの活用にあたっては、平時のうちに、どのような情報が必要となるのか整理しておくことが必要。</p> <p>○ホワイトボードでは、情報が更新された際に消えてしまうので、模造紙等であれば、過去の記録を残せるのではないかと（特に意思決定等の重要な情報）。</p>

その他の課題、意見等	<p>○情報量が多かったので、全て部内で共有すべきなのか、一定判断をしてから共有したほうが良いのか迷った。</p> <p>○廃棄物対策部の参加者は、図上訓練に初めて参加する職員ばかりである。今回同様の訓練を多くの職員に行うことにより、廃棄物対策部の対応能力が高まっていくと思うので、継続してお願いします。</p> <p>○災害状況の時系列表に加え、第2回本部員会議の指示内容は別紙に大きく記載してください。訓練スタート時に廃棄物対策部で支持確認を行ったうえで、訓練を開始するともっと緊張感が高まると考えます。</p>
------------	--

訓練振り返りワークシート

部名： 支部運営部 _____

検 討 項 目	検 討 内 容
各種情報収集、整理、 情報伝達（部内・外）に 関する良好点、課題等	情報整理シートを作成し，入手情報の対応をスムーズに行うことができたが，件数が多くなると人員体制の確保が課題になる。
計画、マニュアル等の 改善・反映事項、要掲載 事項等について	
地図、ホワイトボード の活用状況	ホワイトボードの有効利用により，班内及び各部との情報共有が図られた。庁内で各々の情報共有をするには地図よりもシステムによる共有方法を検討してみてはどうか。
その他の課題、意見等	<p>○支部運営を行う際と訓練の状況が乖離しており，実質的な支部運営における訓練になったとは思わなかった。（実際の災害時には各支部運営班（鏡・土佐山・春野）で状況判断して対応を行っている），</p> <p>○全体の状況を把握することが難しく，最後まで全体の状況が見えなかったことが残念。（状況付与ではあるが，全体を把握してどのように付与した内容が伝わっていくのか訓練だからこそ知る必要があるのではないだろうか）</p> <p>○事前の説明をもう少し丁寧にして頂きたかった。</p>

訓練振り返りワークシート

部名：現地支援部（避難所総務班）

検 討 項 目	検 討 内 容
<p>各種情報収集、整理、情報伝達（部内・外）に関する良好点、課題等</p>	<p>【出口】・14時の避難者情報が14時30分頃に届いて、すぐとりまとめ報告を求められたので、時間的余裕がなかった。</p> <p>【門田】避難所班からの質問事項について、班長への報告、他部・他班へ確認、避難所班への回答は概ね適切になされていたと感じた。ただし、一部に対応保留したことにより対応が遅れたものがあった。</p> <p>【栄田】・班内で手分けして情報収集にあたる事ができた。・収集した情報に優先順位をつけて処理することができなかった。・各部署の基本的な役割の認識が薄く、どの部署に情報を伝達すべきか判断に時間を要した。</p> <p>【西村】避難所班からの質問事項について、班長への報告、他部・他班へ確認、避難所班への回答は概ね適切になされていたと感じた。</p> <p>【八月】電話等にて収集した情報を部内で共有をしていたが、人数が少なく1人が様々な情報処理を平行して進めなければならない状況となっていた。またそれにより自分自身も対応が遅れることがあった</p>
<p>計画、マニュアル等の改善・反映事項、要掲載事項等について</p>	<p>【出口】・未経験者には、分かりにくいマニュアルだった。・もう少し要点を絞って資料作成願いたい。</p> <p>【門田】多岐にわたる対応が求められる避難所総務班の役割では市の防災計画やマニュアル等では対応しきれない部分があるため、これまでに蓄積されたQAをより充実していくことが重要だと感じた。</p> <p>【栄田】・緊急時において、本部の指示を仰ぐ必要があるものとそうでないものを精査すべきだと感じた。</p> <p>【西村】個人的な課題として、市の防災計画やマニュアル等を自身がしっかりと把握できていない部分が多いため、まずは防災計画・マニュアルの理解を深めることが重要だと感じた。</p> <p>【八月】避難者支援システムに、各避難所の避難者の名前や住まい等を多く打ち込む際、重複している場合は、登録できないため、一度検索してから打ち込むように研修を受けましたが、数が多く、またその他の対</p>

	<p>応も並行していたため、時間がなく、改善の必要性を感じました。</p>
<p>地図、ホワイトボードの活用状況</p>	<p>【出口】・実際のところ避難所班としては、地図を活用することが殆どなかった。・ただ土地勘のない、土地に詳しくない方やマスコミ対応には良い。</p> <p>【門田】新たな避難所開設や他の避難所へ移動などに地図、ホワイトボードを活用した。</p> <p>【栄田】・近隣の避難所の位置や浸水区域の把握に役立った。・浸水区域であっても避難者が増加する避難所がある等、実際は移動可能な区域があったことから、もう少し詳細な情報を収集し落とし込むことで、浸水区域であっても物資の運搬や避難者の移動が可能な場所を確認できるのではないかと感じた。</p> <p>【西村】収容人数超過の際に、開設中の最寄りの避難所への誘導を指示する等一定の活用はなされていた。</p> <p>【八月】場所を把握する際にとっても役立ちました。</p>
<p>その他の課題、意見等</p>	<p>【出口】・総合防災情報システムの更新頻度が1時間単位となっていたが、リアルタイムで更新できるようにした方が良い。</p> <p>【門田】実践では総務班では、最新の浸水や道路の状況が把握できない中で新たな避難所開設や他避難所への移動を判断することが難しい。また、日頃の水防では、時間毎の避難者数の報告が中心となっていることは課題と考えている。・電話受理とシステム入力に時間がとられ適切な判断・対応ができない状況だった。</p> <p>【栄田】・防災情報システムに登録されていない避難所が情報としてあがってきたため、避難所開設情報の登録に時間を要してしまった。臨機応変の対応が必要であったことは反省すべきだが、できれば訓練前にシステム等の基本的なものについては情報を統一しておいてほしいと感じた。</p> <p>【西村】例年の風水害時の対応の際は、避難所班からの報告・要請等を本部へ報告し指示を待つことが多い。しかし、大規模災害時には本部を経由せず、避難所総務班が避難所班へ指示・対応しなければならないことが多くあると思う。そのため、大規模災害時に本部からの指示を仰ぐもの、そうでないものの線引きをしておく必要があると感じた。</p>

訓練振り返りワークシート

部名：現地支援部 救援物資班

検 討 項 目	検 討 内 容
<p>各種情報収集，整理， 情報伝達（部内・外）に 関する良好点，課題等</p>	<p>情報収集については与件をもとに実施するほかな く，道路の浸水状況が把握できず，小さな物資配送要 請にも即応できない状況があった。</p> <p>災害協定先でトラック，燃料を供給可能な事業者が 把握できていない（情報が物資配送マニュアルにしか ない。）。本来であれば，災害対策本部すべてで物資供 給協定も含め，あらゆる災害協定先の共有が必要かと 考えます。</p>
<p>計画，マニュアル等の 改善・反映事項，要掲載 事項等について</p>	<p>物資配送マニュアルのうち，発災後1日目から3日 目の県，市備蓄品での対応については，今後新たなマ ニュアル作成が必要。（マニュアルの前提が南海トラ フ地震であるため東部・春野の拠点開設後がメインと なっている。）</p>
<p>地図，ホワイトボード の活用状況</p>	<p>地図についてはほぼ活用できない。避難所の場所の みはわかるものの，避難者数等詳細情報は文字での共 有が必要であるため地図上では不可能。</p> <p>ホワイトボードも連絡事項記載と事前情報のみ。</p> <p>救援物資班は，文字情報とデータを重視するべき で，地図情報は道路の閉塞，啓開情報の助けにはなる と思いますが，システムで一覧，共有できるようにす れば地図は不必要かと思えます。</p>
<p>その他の課題，意見等</p>	<p>実際に被災した場合，現地支援部は本部に詰めるの が妥当なのか？別の場所に拠点を構えても十分活動は 可能であり（情報部から要請等がすべて送られてくる ことが前提）本部員会議での報告もオンラインで実施 できればいいのではないかと（停電時は不可能ですが）</p> <p>基本的にパソコンを使って物資の入出，避難所から の要請の内容を入力し，配送，配車計画を立てるべき 仕事メインになる。県の支援システムではなく，市 がどのように配送しているのかが一覧できるアクセス 等を活用したシステムの構築が急務です。</p> <p>また，各部長正にはパソコン一台配布をお願いした い。課長以上に配布されているパソコンを活用できれ ばいいが，その際には，Wi-Fiを本部へ設置する必要 があります。</p>

訓練振り返りワークシート

部名： 商工観光部

検 討 項 目	検 討 内 容
<p>各種情報収集、整理、情報伝達（部内・外）に関する良好点、課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ自宅療養者への配送業務を経験したおかげで、物資の供給や配送の仕組みをそのまま活かすことができたので、今回の訓練において慌てることなく業務にあたれた。 （良好点）上長の指示が的確で、各々の役割が明確化していたため、対応に遅れることなくスムーズに進めることができた。 （課題点）自分自身、高知の土地勘がなさ過ぎて、周りに頼ることが多かったため、周辺地図をもっと把握する必要があると感じた。 ・他の班から届く要請等に適切に対応できたと思う。 ・情報伝達は比較的うまくいったように思う。 ・処置票への記入作業について、パソコンでの入力も可であると、手書きよりもスムーズに作業ができると感じた。
<p>計画、マニュアル等の改善・反映事項、要掲載事項等について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・救援物資班は、今回の訓練の後、本格的に活動する事になると思われる。 ・今回は、その前段の訓練であり、その後の訓練も受けたかった。 ・マニュアル化するというより、事例集などがあれば活用できると感じた。 ・行動計画表・処置票の提出先がよくわからず困惑した（何人かの防災対策部の職員尋ねたが、皆回答が違った）。
<p>地図、ホワイトボードの活用状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ホワイトボードは文字を連ねるだけでなく、一目で分かるように、図や表などを用いることで、判断速度が上がると感じた。 ・ホワイトボードについて、もう少し全体が把握できるレイアウトにすればよかった。 ・地図・ホワイトボードについては、情報の整理・分析に十分に活用できたと思う。 ・班内で情報共有する際に、出力したデータをホワイトボードに貼りだせたのもよかった。

<p>その他の課題、意見等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 10 t 等による大量の物資を受入れ、運搬するために、フォークリフトが必要となるが、フォークリフトの免許を職員が取得していないため、部内で何人かの免許に取得が必要と感じた。 ・ 備蓄品にはどんなものがあるのか、どこに備蓄されているのか、など実際の現場を見てみないと分からないことが多い。 ・ 机上の研修ばかりではなく、今回のようなロールプレイや現場研修があれば積極的に参加したい。 ・ 班員全体のコントロールを意識しないといけないと感じた。 <p>⇒班員全員が出動すれば最大出力で動くことができるが、休息をとることができない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 物資の配送は人手的に限界があるので、要請が来たからといって、すべて応じるのではなく、「本当に配送が必要なのか」「民間業者に配送してもらえないか」等意識しておく必要があると感じた。 ・ 所属班の性質上、始動のタイミングが受動的になるため、件数をさほどこなせなかった。
-------------------	--

訓練振り返りワークシート

部名：現地支援部（要配慮者支援班）

検 討 項 目	検 討 内 容
<p>各種情報収集、整理、情報伝達（部内・外）に関する良好点、課題等</p>	<p>福祉避難所の開設に係る要配慮者に関する情報提供があまりなく、避難所班等に情報が留まってしまう状況であった。そのため、当班が情報収集にいかなくてはならなかった。福祉避難所の開設のため必要な情報であることから受け身にならず、主体的に情報の収集を行う必要があると認識する一方で、電話を受けた部署や情報を仕入れた部署が当班へ情報提供すれば、円滑にいくのではないかと感じ、疑問が残った。</p>
<p>計画、マニュアル等の改善・反映事項、要掲載事項等について</p>	<p>訓練実施計画が評価や規定などの項目ごとにページ数が区切られていて、ページ数の共有がしづらい。ページ数を区切るのであれば、冊子を分けたほうが見やすいと思う。</p> <p>福祉避難所の開設は、要請後すぐに対応できるものではないことを、周知できていればよかったと思う。</p>
<p>地図、ホワイトボードの活用状況</p>	<p>【地図】 土砂や浸水等の災害が発生した場所を転記。開設された避難所および開設可能な避難所にシールをはる。訓練開始後は、浸水や堤防崩壊等の状況を記入する。 ○地図上で避難所の位置を把握するのに時間を要したが、全体状況の把握及びどこの福祉避難所が開設可能であるかといった予測を立てやすく有効活用できた。 ○2万5千分の1の地図は、町名などの位置の把握ができにくい。</p> <p>【ホワイトボード】 情報収集や対応結果等を表にまとめた。 ○班員全員が状況を把握することができた。 ○実際の場面では、より多くの情報が寄せられることが推測されるため、模造紙の活用でも良いと思った。</p> <p>【共通】 ○地図とホワイトボードの使用例があればよい。各自で考えて使用すると記入や記載漏れ、抜かり、無駄、余剰などが生じるのではないかと。</p>

<p>その他の課題、意見等</p>	<p>○福祉避難所が本部員会議において設置の決定となるなら、今回の要配慮者支援班の訓練としては、開設に至らず不十分であると考えます。</p> <p>○もう少し、要配慮者支援班に関わる情報をいただきたかった。</p> <p>○予想よりも情報が少なく、どう動くべきかの判断が難しかった。発災時における自身の役割等について、多少はイメージすることができたが、まだ分からない状態のため、シチュエーションを変えた訓練があれば参加したい。</p> <p>○今回は、福祉避難所の設置を前提とした訓練でありその流れが体験できたので、よかった。</p> <p>○福祉避難所の施設の情報（何階建てで、何階部分に開設が可能であるか）があれば、情報伝達をしやすいのではないかと思った。また、事前に施設を見学しておくとうれしかった。</p> <p>○浸水エリアにある避難所が、福祉避難所の開設予定建物になっている場合、開設される可能性はあるのか知りたい。</p>
-------------------	--

訓練振り返りワークシート

部名： 部局連絡員

検 討 項 目	検 討 内 容
各種情報収集、整理、 情報伝達（部内・外）に 関する良好点、課題等	<p>情報収集及び情報伝達の方法，経路等が確立されていないため，明確にする必要がある。</p>
計画、マニュアル等の 改善・反映事項、要掲載 事項等について	<p>部局連絡員の行動に関する具体的なマニュアルがなく，行動内容が不明であった。 マニュアルの作成が必要である。</p>
地図、ホワイトボード の活用状況	<p>特に活用なし。</p>
その他の課題、意見等	<p>本部員・部局連絡員・各部局の連絡方法として，LOGO チャットの活用を検討してはどうか。</p> <p>各課の参集状況等は，防災政策課・人事課以外に各課長が確認できると聞いたが，確認方法等の周知のためにもシステムへの安否入力のテストを実施してほしい。また，参集人数の確認後，部局連絡員と連携等についての検討が必要であると考えます。</p> <p>部局連絡員の訓練のため，図上訓練において流す情報に，各部局からの部局連絡員への情報を加え，「災害時初動活動マニュアル」記載の部局連絡員の業務を実施できるようにしてはどうか。</p>

令和3年度 高知市災害対策本部図上訓練

アンケート集計結果

1 訓練部・統制部（共通）

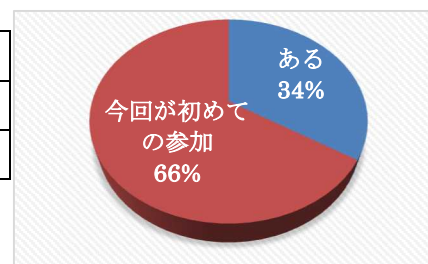
(1) 訓練参加の組織・回答数

訓練部 計	総合対策部	15	統制部（状況付与・対応班）	20
	総務・情報部	16		
	応急対策部	11		
	廃棄物対策部	7		
	支部運営部	5		
	現地支援部	16		
	部局連絡員	8		
	その他	2		

回答総数：100名
(全体)

(2) ロールプレイング方式の訓練経験

区分	全体	割合%	訓練部	統制部
ある	34	34	27	7
初めて	66	66	53	13



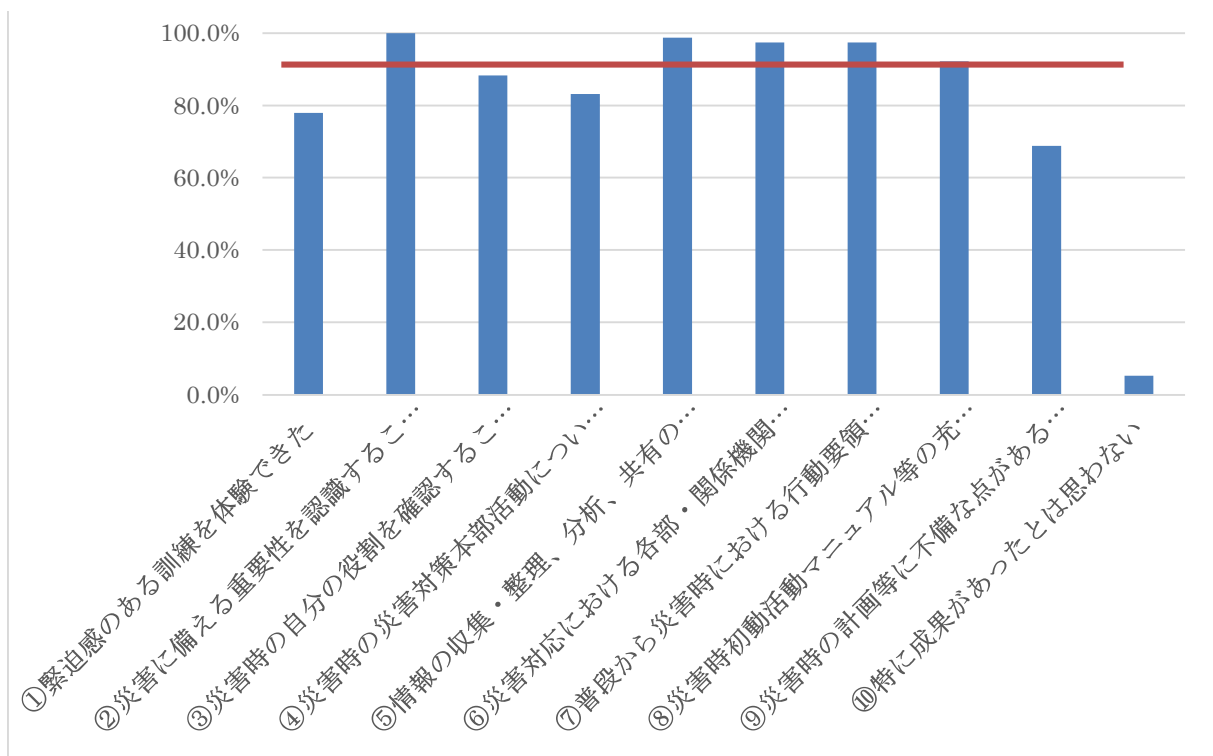
「今回が初めての参加である」が全体の66%であった。

(訓練部 細部内訳)

部署名		経験があった		初めての経験	
		人数	%	人数	%
訓練部	総合対策部	4	27	11	73
	総務・情報部	6	38	10	63
	応急対策部	4	36	7	64
	廃棄物対策部	1	14	6	86
	支部運営部	4	80	1	20
	現地支援部	3	19	13	81
	部局連絡員	3	38	5	63
	その他	2	100		
統制部	状況付与班・状況対応班	7	35	13	65
(集計結果：総数100名)		32	33	66	67

3 今回の訓練の成果（複数回答可）

成 果 内 容	件数	割合%
①緊迫感のある訓練を体験できた	63	78
②災害に備える重要性を認識することができた	80	100
③災害時の自分の役割を確認することができた	71	89
④災害時の災害対策本部活動について理解することができた	66	83
⑤情報の収集・整理、分析、共有の重要性を認識することができた	79	99
⑥災害対応における各部・関係機関等との協同連携の重要性を理解することができた	78	98
⑦普段から災害時における行動要領等に精通していなければならないと感じた	78	98
⑧災害時初動活動マニュアル等の充実が必要であると感じた	74	93
⑨災害時の計画等に不備な点があることがわかった	54	68
⑩特に成果があったとは思わない	4	5



90%が下記事項の成果を回答している。

- 災害への備え
- 情報の収集・整理、分析、共有
- 災害対応における各部・関係機関等との協同連携
- 災害時における行動要領等の精通
- 災害時初動活動マニュアル等の充実

(訓練部 細部内訳) (人数)

部 署 名		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
訓練部	総合対策部	15	15	13	10	15	14	14	13	11	
	総務・情報部	14	16	16	15	16	16	16	15	13	
	応急対策部	11	11	10	10	11	11	11	11	9	
	廃棄物対策部	5	7	7	7	7	7	7	6	4	
	支部運営部	3	5	5	5	5	5	5	4	4	1
	現地支援部	10	16	15	12	16	15	15	15	9	
	部局連絡員	3	8	3	5	7	8	8	8	4	3
	その他	2	2	2	2	2	2	2	2		

【⑩その他 (意見)】

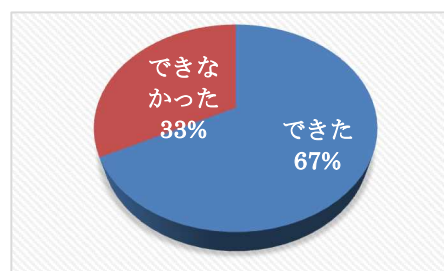
- 1) 各部・各班間の連絡や連携体制を確立しておく必要があると感じた。
- 2) 訓練上の手続きが煩雑と感じた。〇〇の様式で〇〇に FAX のうえ、〇〇と〇〇に電話の指示がありましたが、確認の電話は少なくできないものでしょうか。更に電話番号に誤りがあったため対応に困惑した。貴課の職員にも相談したが、解決に至らなかった。関連部署との連携も訓練の一部と理解したので、一つ一つの対応を確実にこなしたうえで、色々と課題を見つけたかったが、ここで躓いたため、個人的には活動上のすべての課題の把握までには至らなかった。市長からあった最後の話にあった情報量が多い場合の優先順位の選択や情報の出し方について、工夫をしたい。
- 3) 福祉避難所の開設までの想定があれば、もっと実践的に行動できるように思った。
- 4) 情報があまり入ってこなかったことから逆に情報の重要性を認識することができたといった、後ろ向きの「はい」です。
- 5) 部局連絡員の今回の図上訓練では役割を与えられていなかったため、本部と部局連絡員と各部がどう連携していくか分かりませんでした。
- 6) 部局連絡員の図上訓練の実施の必要性は理解できるが、一方通行のみ(環境部との連絡連携無し)では、どこに問題があるのかわからないのか精査が出来なかった。
- 7) 事前に訓練に参加できたことで、全体の雰囲気を知ることができたのがよかったと感じました。
- 8) 応急対策部の訓練振り返りワークシートに記載のとおり。

4 訓練実施の対応等について

(1) 班等、各人の役割、業務内容の理解、業務の実施

ア 自分の部・班等の役割や業務内容・手順等を理解し実行できましたか。

区 分	回答数	割合%
できた	54	67
できなかった	26	33



67%が「できた」と回答している。

(訓練部 細部内訳)

部署名	できた		できなかった	
	人数	%	人数	%
総合対策部	5	33	10	67
総務・情報部	15	94	1	6
応急対策部	7	64	4	36
廃棄物対策部	5	71	2	29
支部運営部	5	100		0
現地支援部	13	81	3	19
部局連絡員	2	25	6	75
その他	2	100		

また、「できなかった」とする原因・理由は「業務の手順がわからなかった」とする回答が多かった。

「できなかった」その原因・理由は

区 分	回答数
①部・班等の役割が良く分からなかった	13
②業務内容が分からなかった	13
③業務の手順が分からなかった	18
④時間がなかった	7

(訓練部 細部内訳) (人数)

部署名	①	②	③	④
総合対策部	4	3	8	5
総務・情報部	1	1	1	1
応急対策部	3	3	3	1
廃棄物対策部			2	
支部運営部				
現地支援部		1	1	
部局連絡員	5	5	3	

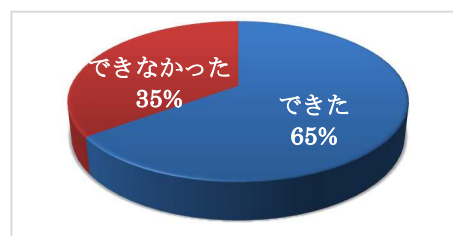
【⑤その他（意見）】

- 1) 事前に、自宅療養者への支援物資配送業務に携わっていたため、イメージしやすかった。
- 2) マニュアルなど構えられていたものの、頭にはいっておらず、何をどうすればよいか理解するまで時間がかかった。
- 3) 役割分担に縛られ、柔軟な対応ができず、班として重要な業務を優先させられなかった。
- 4) 浸水に対する事象以外に、がれきの撤去、倒木、弱者等で避難が必要な方の連絡が同時にあがってきた場合に、他の関係機関や他の対策部との資料の共有をどのようにしたらよいかわからなかった。
- 5) 入ってきた情報（処理表やメモ等）を複数の部や班に依頼すべきと判断し、情報を伝達した際、すでに別から情報が入っていたりした。自分たちの判断が正しかったのかどうかわからなかった。
- 6) 部・班の詳細な役割分担や業務内容・手順等が記載されたマニュアルが整備されていなかった。
- 7) 役割を果たすための相手がいなかった。
- 8) 応急対策部の訓練振り返りワークシートに記載のとおり。

などの意見がありました。

イ 自分の役割や業務内容・手順等を理解し実行できましたか

区 分	回答数	割合%
できた	52	65
できなかった	28	35



65%が「できた」と回答している。

(訓練部 細部内訳)

部署名	できた		できなかった	
	人数	%	人数	%
総合対策部	4	27	11	73
総務・情報部	13	81	3	19
応急対策部	8	73	3	27
廃棄物対策部	6	86	1	14
支部運営部	5	100		
現地支援部	13	81	3	19
部局連絡員	1	13	7	88
その他	2	100		

また、「できなかった」とする原因・理由では、「業務の手順が分からなかった」とする回答が多かった。

「できなかった」その原因・理由は

区 分	回答数
①自分の役割が良く分からなかった	11
②業務内容が分からなかった	12
③業務の手順が分からなかった	19
④時間がなかった	9

(訓練部 細部内訳)

部署名	①	②	③	④	⑤
総合対策部	3	2	6	5	3
総務・情報部	2	2	3	1	2
応急対策部	1	2	3	2	1
廃棄物対策部		1	1		
支部運営部					
現地支援部			2	1	
部局連絡員	5	5	4		5

【⑤その他（意見）】

- 1) 役割等はだいたい理解していたが、一つの業務に時間をとられ、全て実行することができなかった
- 2) 受理した「災害情報通知票」を分析し、各部及び各班へ処理の依頼をすることと、総合状況図の作成・維持管理は実施できたが、今後の対応のための情報分析が(総合対策班と連携して)実施できなかった。
- 3) 入ってきた情報(処理表やメモ等)を複数の部や班に依頼すべきと判断し、情報を伝達した際、すでに別から情報が入っていたりした。自分たちの判断が正しかったのかどうかわからなかった。
- 4) 状況に慣れるまで、いったい何をどうすればよいかわからなかった。
- 5) 本番は本部からの連絡等により行動することになると思われませんが、訓練では役割を与えられていなかったため、動き方がわかりませんでした。訓練は、一定本番の流れが分かる内容にしてもらいたかったです。
- 6) 浸水に対する事象以外に、がれきの撤去、倒木、弱者等で避難が必要な方の連絡が同時にあがってきた場合に、他の関係機関や他の対策部との資料の共有をどのようにしたらよいかわからなかった。
- 7) 部・班の詳細な役割分担や業務内容・手順等が記載されたマニュアルが整備されていなかった。

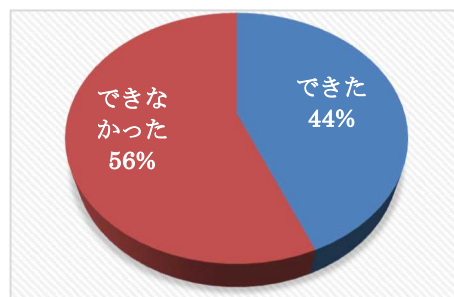
- 8) 業務マニュアル等では実際に行うべき業務の実施が困難だった。
- 9) 応急対策部の訓練振り返りワークシートに記載のとおり。

などの意見がありました。

(2) 正確な情報収集と分析・処理

ア 必要な情報を必要な時期に収集できましたか

区 分	回答数	割合%
できた	35	44
できなかった	45	56



「できた」44%「できなかった」56%とそれぞれ回答している。

(訓練部 細部内訳)

部署名	できた		できなかった	
	人数	%	人数	%
総合対策部	5	33	10	67
総務・情報部	7	44	9	56
応急対策部	5	45	6	55
廃棄物対策部	4	57	3	43
支部運営部	2	40	3	60
現地支援部	10	63	6	38
部局連絡員	1	13	7	88
その他	1	50	1	50

また、できなかったとする原因・理由では、「時間がなかった」とする回答が多かった。

「できなかった」その原因・理由は

区 分	回答数
①指示されなかった	8
②収集相手（状況付与班）がいなかった	14
③時間がなかった	20
④収集の必要性を感じなかった	2

(訓練部 細部内訳)

部署名	①	②	③	④
総合対策部	2	2	7	
総務・情報部		2	5	
応急対策部	1	2	3	

廃棄物対策部	1	1	2	
支部運営部		1	1	
現地支援部	1	3	2	
部局連絡員	3	3		2

【⑤その他（意見）】

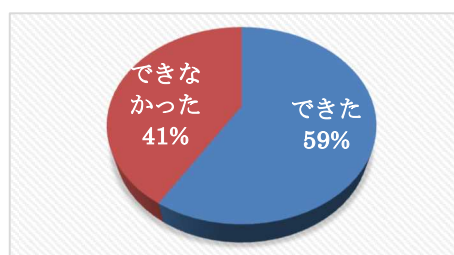
- 1) 情報を受けることに精いっぱい、収集が不十分だった。
- 2) 電話受理担当者からの情報伝達が時系列的に前後した。
- 3) 事前に打ち合わせしていた時間までに、他部からの情報が届かなかった。
- 4) 各部署で情報がアナログで管理されていたため、必要な情報を必要なタイミングで収集できなかった。
- 5) 収集相手を理解していなかった情報があった。また、収集先の相手から提供される予定の情報を得られなかった。
- 6) 電話受理班・災害対策班からいただいた内容が手書きだったため、入力に必要な項目の不足や文字の読み誤りが生じた。
- 7) 救助要請のあった市民の救出が完了したとマイクで報告があったが、対応済の通知票が回付されなかったため、総合防災情報に入力していかかわらなかった。
- 8) 収集相手への手続方法がわからなかった。(電話番号に誤りがあった)
- 9) 情報部から聞取りする中で、今後の予測（天候・雨量）が頂けない状況であった。
- 10) 廃棄物処理施設の現地確認に関する「行動計画表」を企画統制班に提出したが、行動結果等の回答がなかった。
- 11) 総合防災情報システムで把握できる住家等被害の情報が「件数」のため、初期情報の「世帯数」から更新ができなかった。
- 12) 廃棄物処理に影響する浸水情報、損壊情報はシステムを用いて随時入手できた。
- 13) 訓練の中で初期情報として入っていた情報が、訓練開始後も入ってきたので戸惑った。
- 14) 本部全体に共有すべき情報の伝達経路の指定と伝達時間（随時なのか、30分ごと等なのか）の指定が必要。総合対策部の情報共有意識の希薄さが顕著。総務情報部において、情報整理を行い、広報班を通じて本部全体へ情報共有する仕組みの構築が必要では？
- 15) どの班にどのような情報を取りに行けばいいのか、どのような情報がどの班に来ているのか分らなかった。結果、受け身的になってしまい、積極的に情報収集が行えなかった。
- 16) 本番は本部からの連絡等により行動することになるとは思われますが、訓練では役割を与えられていなかったため、動き方がわかりませんでした。訓練は、一定本番の流れが分かる内容にしてもらいたかった。

- 17) 情報提供先（環境部）との連携がなかったため、どんな情報を収集し、どこへ提供・連携するのか全く分からなかった。
- 18) 部局に提供する必要がある情報のさび分けができなかった。
- 19) 訓練では財務部に関する事案はなかった。
- 20) どの班がどのような情報を扱っていたのか、リエゾン班として分かりづらかった。
- 21) 応急対策部の訓練振り返りワークシートに記載のとおり。

などの意見がありました。

イ 入手した情報を整理・集約・分析ができましたか

区 分	回答数	割合%
できた	47	59
できなかった	33	41



59%は「できた」と回答している。

(訓練部 細部内訳)

部署名	できた		できなかった	
	人数	%	人数	%
総合対策部	6	40	9	60
総務・情報部	7	44	9	56
応急対策部	8	73	3	27
廃棄物対策部	6	86	1	14
支部運営部	4	80	1	20
現地支援部	12	75	4	25
部局連絡員	3	38	5	63
その他	1	50	1	50

また、できなかったとする原因・理由では「情報が多く、時間がなかった」とする回答が多かった。

「できなかった」その原因・理由は

区 分	回答数
①指示されなかった	3
②情報が多く、時間がなかった	20
③どの情報をどのように整理・集約・分析したらよいかわからなかった	14
④必要性を感じなかった	1

(訓練部 細部内訳)

部署名	①	②	③	④
総合対策部		8	5	
総務・情報部		6	4	
応急対策部		3	1	
廃棄物対策部			1	
支部運営部				
現地支援部		3	1	
部局連絡員	3		2	1

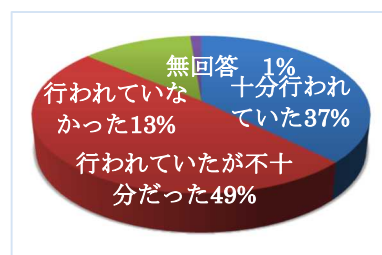
【⑤その他（意見）】

- 1) 重要な情報とそうでない情報が差がなく扱われていた。
- 2) 情報共有手段がアナログであったため、情報の収集が十分に行えず、対応できなかった。
- 3) 情報を整理するための優先順位について、自分の知識で判断してよいのかどうか自信がなかった。
- 4) 生命にかかわりのある内容を優先し、システム入力前に情報分析班に回すよう指示がありましたが、入力班では判断がつかず取り急ぎ入力前に回す事例が発生しました。
- 5) 入手した情報においては、整理・集約はできたと思います。
- 6) 情報を一番に入手する担当であったが、抜かりが無いように全ての情報を伝えるべきか、情報が錯綜しないように取捨選択した後に伝えるべきか、どちらが良いのか最後まで分からなかった。
- 7) 今後の気象情報を踏まえた予測などについての検討が出来なかった。
- 8) 与えられる情報が少なかった。
- 9) 本番は本部からの連絡等により行動することになると思われませんが、訓練では役割を与えられていなかったため、動き方が分かりませんでした。訓練は一定本番の流れが分かる内容にしてもらいたかったです。
- 10) 警察に寄せられる情報が被害・捜索情報のみで、分析できるような必要な情報が得られなかった。

などの意見がありました。

ウ 所属していた部・班内や他の部・班、関係機関等で情報の共有化が行われていましたか

区 分	回答数	割合%
十分行われていた	30	37
行われていたが不十分だった	39	49
行われていなかった	10	13
無回答	1	1



49%が「行われていたが不十分だった」と回答している。

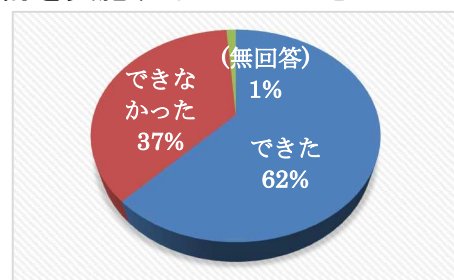
(訓練部 細部内訳)

部署名	十分行われた		行われていたが不十分		行われていなかった		無回答	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
総合対策部			13	86	1	7	1	7
総務・情報部	8	50	8	50				
応急対策部	4	36	5	45	2	18		
廃棄物対策部	3	43	3	43	1	14	1	14
支部運営部	3	60	2	40				
現地支援部	10	63	4	25	2	13		
部局連絡員	2	25	2	25	4	50		
その他			2	100				

(3) 各部及び関係機関等との密接な連携による災害応急対策の立案・調整

ア 被害状況等に基づいて災害応急対策の検討を実施することができましたか

区分	回答数	割合%
できた	49	62
できなかった	29	37
(無回答)	1	1



62%が「できた」と回答している。

(訓練部 細部内訳)

部署名	できた		できなかった		無回答	
	人数	%	人数	%	人数	%
総合対策部	5	33	9	60	1	7
総務・情報部	10	63	6	38		
応急対策部	9	82	2	18		
廃棄物対策部	6	86	1	14		
支部運営部	4	80	1	20		
現地支援部	13	81	3	19		
部局連絡員	1	13	7	88		
その他	2	100				

また、できなかったとする原因・理由では、「時間がなかった」とする回答が多かった。

「できなかった」その原因・理由は

区 分	回答数
①検討のやり方がわからなかった	7
②対策を執る必要がなかった	9
③時間がなかった	13
④指示がなかった	1

(訓練部 細部内訳)

部署名	①	②	③	④
総合対策部	1	3	7	
総務・情報部	1	2	3	
応急対策部		1	1	
廃棄物対策部				
支部運営部				
現地支援部			2	
部局連絡員	5	3		1

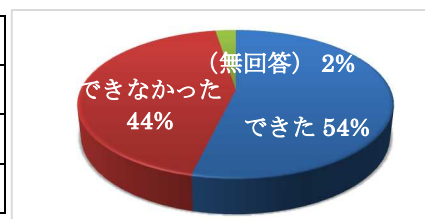
【⑤その他（意見）】

- 1) できたが、案件によっては対応に時間がかかりすぎた。
- 2) 自身の担当業務に忙殺されて、所属していた班が被害状況等に基づいて当面の対応等を検討していたかを確認する余裕がなかった。
- 3) 情報共有手段がアナログであったため、被害状況等の収集が十分に行えず、対応できなかった。
- 4) 情報共有手段がアナログであったため、被害状況等の収集が十分に行えず、対応できなかった。
- 5) 災害時において、班員レベルでの連携の立案・調整は不可能なので、室長クラス以上が中央で情報の共有とともに調整をするべきと思います。
- 6) 対応を検討するために必要な情報が今回の訓練では条件設定されていなかった。
- 7) 各部・班、関係機関との密接な連携に至らなかったため。
- 8) 検討する相手がいなかった。

などの意見がありました。

イ 被害予測等に基づき、将来の対応等を検討することができましたか。

区 分	回答数	割合%
できた	43	54
できなかった	35	44
(無回答)	2	2



54%が「できた」、44%が「できなかった」とそれぞれ回答している。

(訓練部 細部内訳)

部署名	できた		できなかった		無回答	
	人数	%	人数	%	人数	%
総合対策部	4	26	10	67	1	7
総務・情報部	5	31	10	63	1	6
応急対策部	9	82	2	18		
廃棄物対策部	6	86	1	14		
支部運営部	3	60	2	40		
現地支援部	13	81	3	19		
部局連絡員	1	13	7	88		
その他	2	100				

また、できなかったとする原因・理由では、「検討のやり方がわからなかった」とする回答が多かった。

「できなかった」その原因・理由は

区 分	回答数
①指示されなかった	6
②検討のやり方がわからなかった	19
③時間がなかった	16
④必要性を感じなかった	1

(訓練部 細部内訳)

部署名	①	②	③	④
総合対策部	2	4	8	
総務・情報部	2	5	6	
応急対策部	1		1	
廃棄物対策部				
支部運営部				
現地支援部		1	1	
部局連絡員	4	4		1

【⑤その他（意見）】

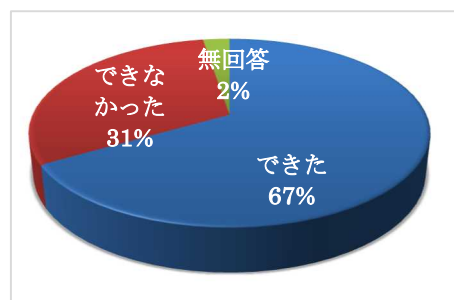
- 1) ホワイトボードに記述したものを他の班が紙に転記しに来ていた。
もっと効率のいい情報共有の方法があるはずだと思った。(ホワイトボードをうまく使えていなかった。)
- 2) 所属していた班と、他の部・班等との情報の共有の状況を確認する余裕がなく、不明。
- 3) 情報を分けつつ、各班の情報を収集し、反映するには時間が足らなかった。(特に3Fフロアの情報)

- 4) 初動活動マニュアルに記載された役割が実際の活動では行っていない内容であった。
 - 5) 各部においてホワイトボードにより情報が共有されていたが、アナログの情報では共有手段として不十分であり、情報の二次利用も困難であった。口頭での情報共有についても同様。
 - 6) 情報量が多く、うまく情報の整理・分析が行われず、情報を共有する以前の段階になることが多かった。
 - 7) 浸水に対する事象以外に、がれきの撤去、倒木、弱者等で避難が必要な方の連絡が同時にあがってきた場合に、他の関係機関や他の対策部との資料の共有をどのようにしたらよいかわからなかった。
 - 8) 情報分析班から情報を紙ベースで置かれたが、情報共有なのか、対応を求められているのか明確でなかった。
 - 9) 今回の訓練が発災後直後の人命優先となるフェーズであったのに対し、所属部は廃棄物の対応であったことから、他部署と連携を必要とする情報が少なかった。
 - 10) 自班で対応した際に、共有すべき他班への情報共有ができずに、他班から情報を求められることがあった、ただし、これも訓練の中で以後改善された。
 - 11) そもそも 5 階フロアが手狭であり、情報共有を円滑に図るには各部の司令塔となる部長正が同じフロアにいるべき。情報共有の手段も口頭や各部のホワイトボードが大半というのは余りに危険ではないでしょうか？システムの共有情報を画面に表示するなどの取組が必要と思います。
 - 12) 情報提供を待っていたが、自らも情報収集する必要性があったのではないかと思う。
 - 13) 福祉避難所の開設に係る情報が、あまり入ってこなかった。
 - 14) 訓練中、役割が与えられていなかったため、情報の収集方法も分かりませんでした。また、連絡先の職員が訓練に参加していなかったため、どのような流れになるのかも分かりにくかったです。
 - 15) 部局連絡員同士では情報の共有が出来ていたがそれから先の連携・提供・共有が出来ていなかった(実施すべき共有等が訓練未参加の為)
 - 16) 提供先がなかった。
 - 17) 応急対策部の訓練振り返りワークシートに記載のとおり。
- などの意見がありました。

(4) 災害時初動活動マニュアル

ア 災害時初動活動マニュアルに基づく業務は実施できましたか

区 分	回答数	割合%
できた	52	67
できなかった	24	31
無回答	2	2



68%が「できた」と回答している。

(訓練部 細部内訳)

部署名	できた		できなかった		無回答	
	人数	%	人数	%	人数	%
総合対策部	7	47	8	53		
総務・情報部	14	88	2	13		
応急対策部	8	73	3	27		
廃棄物対策部	7	100				
支部運営部	5	100				
現地支援部	11	69	5	31		
部局連絡員	1	13	6	74	1	13
その他	1	50			1	50

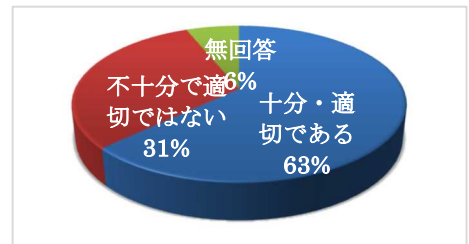
【⑤その他（意見）】

- 1) 時間がなかった。
- 2) 当日は、災害時初動活動マニュアルに基づく自身の業務とは無関係の事務を急遽担当することとなったため。
- 3) そもそも災害時初動活動マニュアルを読み込めていないため、基づいているかどうか判断できません。
- 4) 適切な情報の分析と、伝達ができなかった。
- 5) 実務経験が少なく、初動活動マニュアルを理解できていなかった。
- 6) (総合対策班と連携して) 今後の対応の情報分析ができなかった。
- 7) 情報が多く、時間がなかった。
- 8) 業務の概要しか記載されておらず、実務では参考にならなかった。
- 9) 自分自身の部や班の業務については目的ややるべきことは理解していたが、全体の情報の伝達フロー等についての理解や、自分の業務のやり方についての知識が不足していた。
- 10) 情報受理班から入る情報で、がれき撤去など応急対策部で処理すべき情報と、要避難者対応、マスコミ対応など他部署で対応すべき情報が混在していたため処理後に他部署に伝達する必要があったので、情報受理班で案件ごとに対応部署を振り分けて両部署に伝達してほしい。
- 11) 排水時間や被害拡大の見込みについて、分析、整理したが、その情報を他の部に展開せず、本部会にあげることだけが目的になっていた。

- 12) 情報量の多さに圧倒され、マニュアルに基づいた行動がとれたとは思えなかった。
- 13) 多岐にわたる事案に対応したため、マニュアルではなく水防時総務班としての対応から都度最適な対応は何かをイメージしながら実施した。
- 14) 熟読できていなかった。
- 15) 福祉避難所の開設に係る情報が、あまり入ってこなかったため。
- 16) 図上訓練では役割を与えられていなかったため、実施できませんでした。
- 17) 部局の参加がなかったため。
- 18) 今回の訓練では部局の各課とやり取りする想定になってなかった。
- 19) 部局連絡員の活動ができる状況ではなかった。
- 20) 部局連絡員が収集した情報を提供する相手がいなかったため、実施できなかった。
- 21) 応急対策部の訓練振り返りワークシートに記載のとおり。

イ 災害時初動活動マニュアルの記載内容は適切だと思いますか

区 分	回答数	割合%
十分・適切である	51	63
不十分で適切ではない	25	32
無回答	5	5



63%が「十分・適切である」と回答している。

(訓練部 内訳)

部署名	十分適切である		不十分で適切ではない		無回答	
	人数	%	人数	%	人数	%
総合対策部	6	40	6	40	3	20
総務・情報部	10	63	5	31	1	6
応急対策部	6	55	5	45		
廃棄物対策部	6	86	1	14		
支部運営部	4	80	1	20		
現地支援部	13	81	3	19		
部局連絡員	3	38	4	50	1	12
その他	1	50			1	50

「不十分で適切ではない」その理由について

- 1) 検証するまでに至らなかった。
- 2) どの班と何を情報共有すればいいのかが分からなかった。
- 3) 別途、業務遂行のための手法、手順、研修等が必要
- 4) マニュアルで動き方を判断することが難しかったから。

- 5) 当日は、災害時初動活動マニュアルに基づく自身の業務とは無関係の事務を急遽担当することとなったため、今回の訓練においてそれを判断することができなかった。
- 6) 初動マニュアルにあるべきかは別として、マニュアルを補足するような手引きがあるといいと思う。
- 7) 各班における具体の対応事例があれば、なお良いと思う。
- 8) マニュアルと実務の整合性の確認が必要、また、各業務の実務例が必要
- 9) 総合状況図の凡例を明確に決めた方が各班の連携がより正確に取れると思います。
- 10) 記載内容と各部・各班の活動の見直しや、各部員への活動内容の周知が必要であると感じた。
- 11) これまでの事例を参考に、FAQを充実させてほしい。
- 12) 実際の災害時は、業務に精通した職員が対応できるとは限らず、また、要員についても毎年異動があることから、より詳細なマニュアルやFAQ等の整備が必要。
- 13) 情報の収集や伝達の全体的な流れや、さまざまな情報に対する対応の判断基準等、実際に情報を扱う中で必要と感じる情報についての記載が不十分だと感じた。(資料編の電話対応FAQは具体的で活用できた場面があった)
- 14) 詳細部分等確認が必要な部分があると感じた。
- 15) 各班で整理すべき情報、他部に伝達すべき情報と伝達先、他部から収集したい情報などを整理し、マニュアルに明記すべきである。
- 16) 鏡・土佐山・春野での応急活動は、鏡支部運営室、土佐山支部運営室、春野支部運営室との業務と理解しています。ただ、先の3地区での災害件数が多く発生した場合、応急対策部からの応援が必要となる可能性もあります。このような役割分担で間違いなければ、その旨をマニュアルに記載してはどうでしょうか。訓練時にこの3地区も応急対策部の確認が必要ではないかと認識している人もいました。
- 17) 各部、班が情報共有し、意見交換できる仕組み作りが必要と感じた。初動時は実務に不慣れなものだけで対応することも考えられるので、具体的な行動計画が必要であると感じた。
- 18) 情報の共有について明確にするべき。
- 19) 見直す余地がある。
- 20) 災害時初動活動マニュアルがどこにあるか分からない。(防災政策課のホームページにない。物資班であれば、高知市物資配送計画のこと?)
- 21) 各班の業務のポイントを、もっと詳細に記述すべきだと思います。
- 22) 具体的に記述することはできませんが、必要とする情報があまり入ってこなかったことから、「2」を選択しました。
- 23) 図上訓練を行う中で、さらに充実させていくことが必要と感じた。

- 24) 十分ではないが、適切だと思う。
- 25) もう少し具体的なマニュアルが必要
- 26) 事前説明会をもう少し詳しい内容で行ってほしかったです。訓練なので模索しながらとの話もありましたが、ある程度の判断基準の示しがないと、自分で考えて判断するのは難しいと思いました。訓練中は班長が近くにいたので適宜確認することができましたが、実際に班長等の相談先がない場合に、ある程度自分で判断できるように Q&A のようなものがあればいいなと思いました。
- 27) 応急対策部の訓練振り返りワークシートに記載のとおり。

3 自由意見（訓練部・統制部共通）

訓練全般を通して、改善を要する事項（例えば、訓練時期・時間、訓練編成、訓練の想定、状況付与等）がありましたら、自由に記入して下さい。

（1）訓練部

<p>総合対策部</p>	<p>訓練実施前の準備不足を感じます。実際の発災時は情報過多により災害対策本部が混乱することは十分理解できますが、訓練においてはただ慌ただしくするだけでなく、現在の組織のスキルに応じた訓練内容にする、もしくは事前の本部機能の流れを確認しておくなどにより、訓練が効果的なものとなるのではないかと思います。</p> <p>全体的に人手が足りず、対応事項が多かったが、南トラ時など大規模災害時は少ない人数で多数の対応に追われ、今回の訓練のような過酷な状況での対応が必要であるのだろうと感じ、知識が不足していること、考えが甘かったことを知った。</p> <p>また、実際の災害時は、訓練時よりも職員に心の余裕がないと考えられるため、訓練時より過酷な状況であるだろうと思った。</p> <p>自分の班の対応で適切だったところ、また不適切だったところが知りたい。</p>
<p>総合対策部 総合対策班</p>	<p>動き方などの確認の時間がもう少しあっても良かったと感じた。</p> <p>訓練前の基礎的な対応・準備について、もう少し学ぶべきだった。事前研修・勉強会が必要だと思う。</p> <p>何をどうすべきだったかの、事後研修も必要。</p> <p>経験者がほぼいない中、付与される情報が多すぎて、どう分析すればいいか考える時間もなかったため、同じ8時間経過後の訓練を行うにしても、付与の内容や分量の検討があるのでないか。</p>
<p>総合対策部 情報分析班</p>	<p>訓練における完成系のハードルが高すぎる。</p> <p>付与するシナリオに対する体制になっていない。体制に応じたシナリオを付与するべきでは？</p> <p>災害対策本部が立ち上がり第2次配備体制になっているのであれば、また、警戒レベル5であれば、どのような体制（参集人数）なのか？今回の体制は、警戒レベル3や4の体制では？</p> <p>また、今回は訓練であり、最終の本部員会議は大会議室などで参加者全体に公開して行った方が、訓練の結果が全体に見えたのではないかと？さらに、企画統制班や業者などにより、完成系の動きや完成系の総合状況図、本部員会議での模範の報告なども、参加者全員が確認できれば、次につながるのではないかと思います。このままだと次に訓練や本番を行っても、全員が理想系に近い動きができるとは思えない。</p> <p>最後に、行事やイベントを行うときには、週明けの月曜日ではない日にした方がよいと思う。</p>

総合対策部 情報分析班	<p>総合状況図の作成例が資料によって違っていた。(浸水地域の凡例が青の資料と赤の資料があった)</p> <p>凡例については全国的に決まったものがなく、訓練の中で各々考え動けるように取り決めをしてないように察しますが、各班の情報を収集する際に凡例が違い、結果としては誤った情報を記載したり、時間を要したりするケースが散見された。</p> <p>高知市の中での凡例を事前に明確に決め、マニュアル化の方が訓練のみならず本番でもより正確な情報の共有に繋がると思うので良いと思う。</p> <p>また、総合状況図を作成するマーカーが水性のものばかりのため、袖などがあたり度々消えていた。各色書き込む様に油性2～3本、やり直す用に水性1本は今後あった方が良くと思う。</p>
	<p>各部・各班との連絡方法や手段、情報の共有方法など、一定のルールを明確にしてほしいと思います。</p>
	<p>総合状況図に全ての被災状況や避難所の状況等を書き落とすのは不可能であった。</p> <p>備品のペンがオーバーレイの様式に記載しても手でふいたら消える。</p> <p>3階の班からの情報の吸い上げが大変なので、時間ごとに区切って情報を提供してもらおうようにするか3階のみの総合状況図を作成するなどにしてはどうか。あくまで案です。</p>
総務・情報部	<p>総合防災情報システムを有効に活用できるよう、事務フロー、情報共有方法等を見直してはどうか。</p>
総務情報受理班	<p>訓練内容に応じた人員数の配置および電話の用件別の転送先等の取り決めを要望したい。</p>
	<p>情報受理にかかってくる状況付与の電話に対してこちらが質問(何階建ての建物にいるか等の確認)をした際、「わからない」の回答が多かった。対応は可能だったが、実際の電話ではあり得ないことなのでその設定をもう少し細かくするかアドリブでも答えられるのでは?と感じた。</p>
総務・情報部	<p>手書き、紙ベースでの情報伝達が中心となっていたが、「共有ができない」「文字等が見づらい」「コピーに時間を要する」など課題を感じた。情報伝達及び情報共有ツールとして、行政事務支援システムの掲示板機能を活用することや、「LoGo チャット」を導入する等の方法の検討が必要だと感じた。</p>
総務・情報部 広報班	<p>広報班の業務内容について、経験知やパソコンのフォルダ内のメモで行われており、未経験者は業務を遂行する上で自分で考え行動・判断することが難しかった。</p>

<p>総務・情報部 広報班</p>	<p>以下の内容について、広報班のマニュアルの改善の必要性を感じた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害対策本部の全体像の把握 ・定時報告に掲載する情報の収集・作成方法 <p>システムから抽出した情報の精査方法、必要な情報はどこで収集できるのか。</p> <p>※収集する相手型のマニュアルにも広報班への情報提供について記載</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定時報告の内容 <p>現状の被害状況（通報及び要請件数）・避難所開設状況で良いのか。災害規模や種類によって変更する必要性はないのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定時報告の共有方法（公開資料を対策本部内で共有する相手） ・想定されるマスコミからの依頼に対する対応の判断フロー <p>別途判断が必要となるケースもあるが、想定されるものについては事前に用意することにより、迅速な対応につながる。</p> <p>（例：被災現場撮影許可、避難所の撮影許可、定時報告以外の情報提供依頼など）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害対策本部会議への災害対応報告様式 <p>作成のタイミング、総務・情報部が何を報告するか、事前に整理しマニュアルに掲載しておくことで作成が迅速に行うことができる。</p>
	<p>訓練について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・システムからの情報を前提としている定時報告について、システムが使うことができないため、実際には発生しない業務（手集計等）があった。また、県への報告のシステム入力やHP・SNSでの情報発信など処理票で対応する業務が多かった。 <p>難しい部分もあると思うが、実態に即した形での訓練ができれば、より有益な訓練になったと感じた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年1度では不十分に感じた。こうした大規模な訓練以前に各班単位等、小規模な訓練を回数多く行うとともに、災害多作本部全体についても理解できる研修があればと思った。（マニュアルの配布だけでは、なかなか見る機会がないので）
<p>総務・情報部 情報入力班</p>	<p>班でやるべきことの流れの確認ができてよかったです。</p>
<p>応急対策部 現地対策総務班</p>	<p>部内での情報収集と整理、対策立案を行い、その内容を本部会にあげることに終始してしまった。他部が必要としている情報が把握できていないため、外部への伝達や連携が全くなされなかった。</p> <p>各班で整理すべき情報、他部に伝達すべき情報と伝達先、他部から収集したい情報などを整理し、マニュアルに明記すべきである。</p> <p>情報受理班から入る情報で、がれき撤去など応急対策部で処理すべき情報と、要避難者対応、マスコミ対応など他部署で対応すべき情報が混在していたため、処理後に他部署に伝達する必要があったので情報受理班で案件ごとに対応部署を振り分けて両部署に伝達してほしい</p>

<p>応急対策部</p>	<p>本部会にあげる前に、各部、班が情報共有し、意見交換できる仕組み作りが必要。</p> <p>初動時は実務に不慣れなものだけで対応することも考えられるので、具体的な行動計画が必要。</p> <p>各班が整理すべき情報、災害発生時に入手したい情報を整理し、それぞれの情報がどこで得られるかがわかるようにする必要がある。</p>
<p>応急対策部 浸水対策総務班</p>	<p>浸水対策室では、現況の把握と今後の被害拡大もしくは収束を予測して、水門操作等の対応をしていくことが重要で、そのためには時間雨量、河川水位等の情報をリアルタイムで入手する必要がある。浸水地域は拡大していくという前提での訓練であったが、リアルタイムで雨量や水位の情報をこちらから入手することができれば、より実際に近い緊迫した訓練になると思った。</p> <p>主要ポンプ場が停止すると甚大な被害となる。そのときの対応について各自考えることができた（住民避難、応援の要請等）。</p> <p>災害時は、気象の予測を情報提供して頂かないと将来対策が検討が困難です。</p> <p>各対策部、他関係機関との情報共有として、中央で情報共有や調整する場所とその立場の方を配置することが必要と感じました。</p>
<p>廃棄物対策部 現地対策室 廃棄物対策総務班</p>	<p>最初の説明がよくわからず、何をするのか不明であった。</p> <p>実演とかがあれば良かったかもしれない。</p> <p>総合防災情報システムについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・GISの地図を高知市全体が移せる状態にして被災状況の描写を実行した際にフリーズしたため強制終了する事があった。 ・被害情報の帳票印刷の際に、画面上では該当の範囲が斜線描写されているが、印刷紙面ではそれがなく、複数の被害範囲の描写が重なっている事で、本当にその帳票で伝えたい被害エリアがどれかわかりずらかった。 ・「周知情報の登録」で、高知市全域に対する周知をしたい場合、対象範囲の選択は不要としたかったができなかった。エリア選択は「必須項目」と記載されていなかったのに、選択しないと先に進めない設定となっていた。選択範囲が常に画面地図上で斜線描写されるため、全域選択の描写はその他情報閲覧のために邪魔であった。 ・被害情報の一覧で、既読、未読がわからず、見抜かりがあった。 ・被害情報の登録者（新規、更新）が分からず、どこの部発信の情報か不明であった。情報の更新を2部にまたがって行う必要がある被害情報（例：救助要でゴミの処理も必要）で、どのように登録すればよいかわからなかった。 ・被害の集計表で、全壊半倒壊等が件数となっていたが、棟数が不明であったため情報として活用できなかった。（棟数から発生ゴミを予測し対応にあたる想定であった）

<p>廃棄物対策部 現地対策室 廃棄物対策総務班</p>	<p>・実際の浸水エリアをシステム上にレイヤで描写できれば、迅速な対応につなげられる。</p> <p>・最新情報への更新がブラウザの「更新」をクリックするのみであったため、自動更新やポップアップ等がないと更新に気づかず情報を得るタイミングが遅くなった。</p> <p>訓練に初めて参加しましたが、あらかじめ自分や所属する班の役割について理解しておく必要があると感じました。また、実際の対応では、情報の整理の仕方（ホワイトボード等の使い方）や対応の優先順位の判断を適切かつ迅速に行う必要があると感じました。</p>
<p>支部運営部</p>	<p>支部運営部においては、総務班、鏡・土佐山・春野の各支部運営班で組織されているが、今回のプレーヤーである総務班が情報収集し・各支部運営班に対して指示を行うという訓練方式をとった。</p> <p>しかしながら、実際の災害時においては各支部運営班が地域住民からの要請を受けて、その場で判断し、迅速に対応する場面が多い。（部長正や部長副、あるいは総務班が指示することは少ない）</p> <p>今後の訓練においては、支部運営班がプレーヤーとしての対応動作を学ぶことの方が重要ではないかと思われる。</p>
<p>支部運営部 支部運営総務班</p>	<p>先に起こる事態を予測して情報を求めた際に、状況付与班にはそのような情報は与えられていないと答えられることがあった。本番とはかけ離れた対応をされた際に、訓練としての緊迫感が薄れていった。</p> <p>土砂災害や避難中の行方不明者が多く出ている大規模災害で現地にブルーシートを届けるなど、現実的でないことが多くあった。</p> <p>また、訓練時情報では床上浸水しているあじさい会館に避難者を受け入れている、水防要因の配置時間が台風が直撃する時間であり、暗くなり始める午後5時など、ありえない想定だった。</p>
<p>現地支援部 救援物資班</p>	<p>1日目は災害発生の恐れがあるという状況から訓練をスタートし、2日目は実際に被災したという状況のもと対応を訓練するという流れがいいのではないのでしょうか？</p> <p>被災の前提と状況付与の中身ももう少し高知市の特徴や周辺市町村の状況も想定した上で、検討をされた方がいいと思います。（国からプッシュ型の救援物資は4日後配送、発災初日にプッシュ型はあり得ない想定では？ありうるのであれば、現在の物資配送マニュアルは改訂を。）</p> <p>救援物資班は創設されてまだ間もないですが、南海トラフ地震の発災後のマニュアルは整備いただいております、発災後4日以降の動きは明確であるものの、1日から3日目の県、市備蓄品の配送については非常に弱い印象があります。（大雨浸水被害の場合にわざわざ東部や春野に備蓄品を集積した上で配送するのは非効率的で備蓄品倉庫の東西南北への配置が効果的ではないのでしょうか？）</p> <p>県の備蓄量、場所、市の備蓄品や備蓄場所、特に防災倉庫の位置（浸</p>

現地支援部 救援物資班	<p>水しており使用不可となる場所がどこなのかが事前に把握できない)や倉庫内の備蓄品の状況把握も普段からはできていない状況。通常時の訓練や取組として、防災倉庫の備蓄品の状況確認や、給食センターの備蓄品の状況(今回は期限の切れた備蓄品も存在した)を確認した上で、全体を把握する機会を与えてほしいと思います。</p> <p>本部員会議で市長が様々検討できるための会議資料の作成のための訓練ならやめていただきたい。</p>
	<p>避難所の施設番号について</p> <p>避難所の施設番号は、「物資配送マニュアル」では、「春01」「東02」の様に振り付けられている。訓練では、通し番号で振り付けていた。</p> <p>訓練の図上では、配送マニュアルの様な記載は厳しいかもしれないが、本番時のことを思うと、どちらか(配送マニュアルか通し番号)にそろえた方が良いのではないだろうか。</p>
	<p>救援物資班として、防災倉庫の備蓄品の確認が必要と感じた。発電機や投光機等、実際にエンジンをかけて始動する訓練をしておかないと、実際の現場では使い物にならない可能性があると思う。また、備蓄品が使用できるかどうかの点検をする必要があると思うので、エリアを分け、何年かに分けて、商工観光部で防災倉庫の備蓄品の点検及び確認をしてはどうかと思った。また、防災倉庫の鍵について、同じ鍵にする等の対策が必要ではないかと感じた。</p>
現地支援部 要配慮者支援 班	<p>事前に、各自災害時初動活動マニュアルの各班の該当箇所を確認しておくこと、といった指示があってもよかった。</p> <p>要配慮者支援班は、福祉避難所開設するまではほぼ情報収集しかすることがなかったので、手持ち無沙汰感があった。</p>
	<p>必要な情報の整理や災害状況に応じた福祉避難所の開設予測等の行動はできましたが、要配慮者支援として福祉避難所の開設を想定した訓練であれば、もう少し実践に近づけるように思いました。</p> <p>防災情報システムの使用方法が理解できておらず、使用方法が分かれば福祉避難所開設の検討など情報をもっと有効活用できるように思いました。</p>
	<p>要配慮者支援班として訓練を行ったが、知識不足もあり、どのように行動すべきか、どの班とどう連携すればよいか分からず、動きが取れなかった。</p> <p>また、福祉避難所も本部会を経て開設を検討する流れになっていたこともあり、他の班に対して福祉避難所はどのような流れで開設となるかを周知できていれば良かったのではないかと思う。</p> <p>次回参加する際には、災害状況や避難状況など、より積極的に情報収集を行っていききたい。</p>

<p>現地支援部 要配慮者支援 班</p>	<p>福祉避難所は本部員会議で設置が決定となるため、今回の要配慮者支援班の訓練については福祉避難所の開設に至らず不十分だと感じました。</p>
<p>部局連絡員 (消防局を除く)</p>	<p>部局連絡員の具体的な役割を明確にするために部局連絡員マニュアルを作成することを検討中です。</p> <p>部局連絡員の役割はマニュアル等で事前に確認しておりましたが、今回の訓練では部局連絡員の役割が与えられていなかったため、訓練により、具体的にどのように部局連絡員に指示がおり、どう自分たちが動くべきかを把握することはできませんでした。</p> <p>今回の訓練で、どのように他の班が動くかを見ることができ、参考になりましたが、部局連絡員の部屋は個室であったため、他の班員の邪魔にならないよう、動きながら見学をする形になりました。</p> <p>今後の訓練も、部局連絡員は流れを確認することが主な内容になるのであれば、せめて、同じ部屋で見学をできるようにしてもらいたいです。</p> <p>直接訓練と関係はないが、部局連絡員どうしが緊急に連絡をとりたいことが出てくるのではと、訓練後思った。</p> <p>今度、部局連絡員どうしが集まる機会があるので、携帯電話番号などのリストを作ってはと提案することにする。</p> <p>部局連絡員は、災害対策本部と部局の連絡調整が役割であるが、連絡する先がなかった。</p> <p>今回の訓練では、例えば部局内の課長に LOGO チャットや内線を使って連絡を取る等の設定が必要ではないかと感じた。</p> <p>部局連絡員である自分も含め、部局内でも部局連絡員の役割が理解されていないと感じた。</p> <p>部局連絡員の役割に合った訓練ができにくい状況設定であるため、災害対策本部外の各部局も参加する等、訓練内容の工夫が必要である。</p>

(2) 統制部

状況付与班	<p>厳しい指摘もあったようだが、情報伝達絡みで言えば緊張感をもって取り組んでいたと思う。</p>
	<p>状況付与班はもっと少人数で良く、逆にプレーヤー側には各課1名以上参加する方が良いと思います。</p>
	<p>状況付与班については、市の職員で構成する必要性が薄いと感じました。</p>
	<p>DPSOLのスタッフの準備不足が目立ち、費用に見合った訓練の成果があったのか疑問。</p>
	<p>各機関のリエゾンからの状況付与については、ほぼ「活動状況報告」ばかりであったが、現実には、報告ばかりでなく、各機関から市災害対策本部への要請・要望も入ると思うので、そのような内容の付与があれば、もっと現実的な訓練になるのではないかと感じた。</p>
	<p>参加した時間のほとんどが架電待ち時間のような状況であり、通常の水防体制における支部運営の状況とも異なっており緊迫した訓練になったとは言い難い。</p> <p>一方で、災害現場の位置を正しく伝えることが難しいと感じていたが、今後、土地勘がない方が救助に入った際にどこまで場所を正確に伝えられるのか考える機会となった。</p>
	<p>訓練の改善としては、状況付与内容をもう少し詳しく設定してほしいです。状況付与カードに設定されている内容以外は基本的に回答してはいけないため、情報受理班からの質問に答えられない状況が多々ありました。受理班から聞かれるであろう内容を想定し設定することでより実践的な訓練になると思います。</p>
	<p>平時からの災害を想定した訓練の必要性を痛感するとともに、併せて初動期に限らず、各本部体制での応急活動期を想定したものも必要だと感じた。</p> <p>抽出された課題や意見を全庁的に共有し、次回以降の訓練に反映する必要があったと感じた。</p>
	<p>訓練に参加しているいろいろな役割があり、各部が連携して活動にあたるのが重要であるということは理解できた。その一方で、自身の勉強不足もあり、訓練という短時間になかでは自身の役割や活動全体について深く理解することは出来なかった。今後も災害対応を意識して業務にあたり、実際の災害発生時に的確に行動が出来るよう努力していきたいと思った。</p>
<p>状況付与（コントローラー）の立場で初めて訓練に参加したが、訓練開始直後に、1件問い合わせがあったのみで、あとは指定された時間に状況を伝達するだけで、問い合わせ、指示等もなく訓練が終わってしまった。もう少しこちらにも、状況付与以外の役割があればと思った。</p>	

状況付与班	<p>事前説明会において、配布資料を読み上げるだけであったので、事前に、時系列に誰が何をするのかが視覚的に分かるように訓練の全体の流れを説明してから、各部門の詳細にはいってあげればよかった。</p> <p>目の前に市民役の状況付与の職員がいたが、情報受理班とのやり取りの中で、台本以外の情報に対する返答に苦慮していたので、問い合わせに対する周辺情報やアドリブが必要であることを伝えてあげれば、スムーズなやり取りができたのではないかと感じた。</p>
	<p>事前の説明や当日の説明だけでは、自分がプレイヤーなのかコントローラーなのか、また何をしていたかわからなかった。</p> <p>待機時間が長く、人員は減らしても構わないと感じた。</p> <p>作業内容がプレイヤーへの指示のみで詳細（男女の内訳など）が無く、プレイヤーからの問い合わせに答えられなかった。また、アドリブが不可との話があり、要望の言いつばなしになってしまった。アドリブありにした方がプレイヤーが緊迫感を持てたのではないかと感じた。</p> <p>他の会場にプレイヤーがいたため、流した情報がどのようになっているのかが分からなかった。</p> <p>以前、避難所運営ゲームをやった時に緊迫感があり良かったので、防災全般についても同様のゲームがあれば緊迫感があるのではないかと感じた。</p>
	<p>今回はコントローラ（状況付与班）として参加しました。実際に災害が発生した際は、避難所総務班としての役割を担うことになるので、本番を想定した訓練とはなりません。しかし、避難所総務班から受けた回答から、避難所側の立場を多少なりとも理解することができました。</p> <p>改善点としては、情報付与をするにあたり、事前に想定している内容（資料）との相違がある場所が見られたため、そこを精査しておく必要があるのではないかと感じた。また、情報付与された班の動きを見ることができれば、より本番を想定した訓練になるのではないかと感じた。</p>

訓練等写真記録

1 事前説明会（令和3年11月10日（水））



会場配置



機材点検



説明会参加者

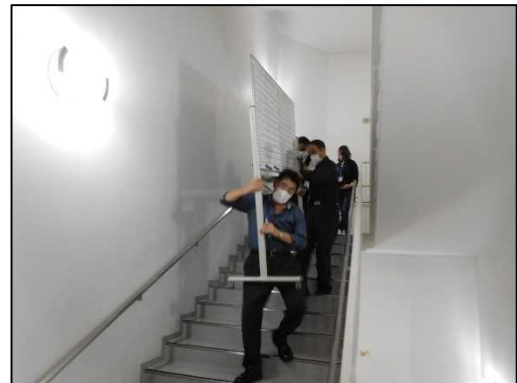


全般説明（堀内防災対策監）

2 訓練準備（令和3年11月14日（日））



2 訓練準備（令和3年11月14日（日））



訓練会場準備

3 訓練準備（令和3年11月15日（月））



準備（プレイヤー室入口）



受付



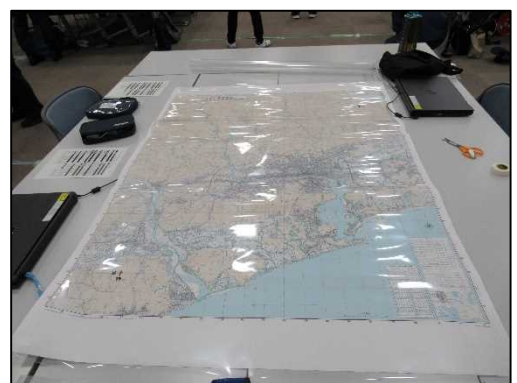
手指消毒



検温



コピー機（レンタル）



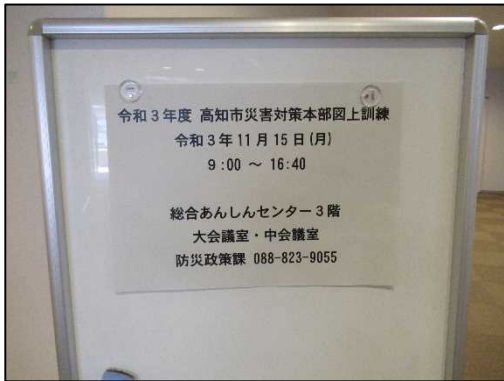
地図



班 与 付 况 状



班 与 付 况 状



訓練案内

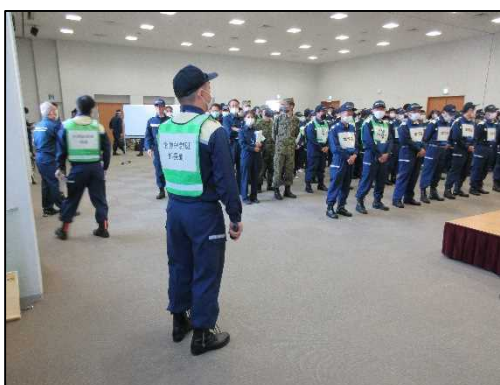


携帯電話 (レンタル)



本部員会議室

4 訓練(令和3年11月15日(月))



訓練開始式



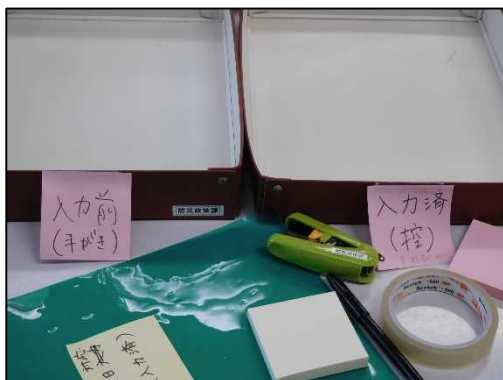
市長挨拶



訓練開始前打合せ



訓練前の地図記入



システム入力等前後の区分け



ホワイトボード(集計表等)の事前準備



5 訓練



総合対策部



総合対策部



総務・情報部



応急対策部





応急対策部



廃棄物対策部



支部運営部



現地支援部



部局連絡員



関係機関

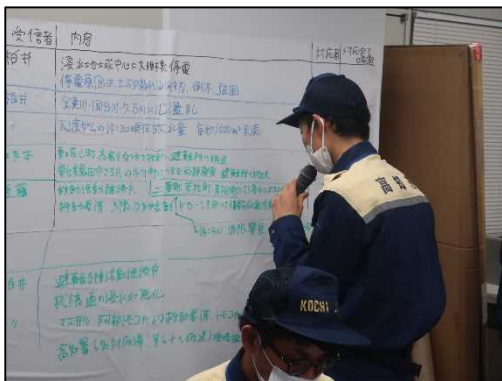


関係機関

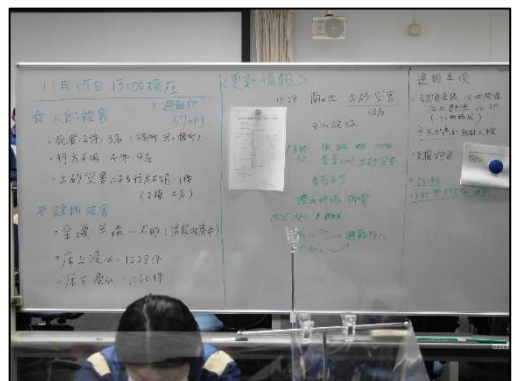


関係機関

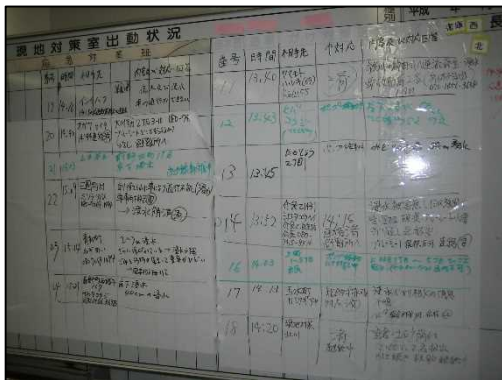
6 訓練(ホワイトボード等状況)



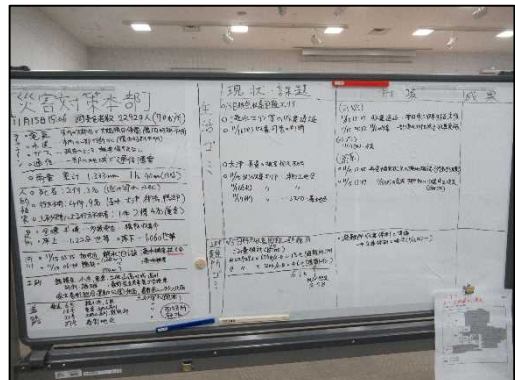
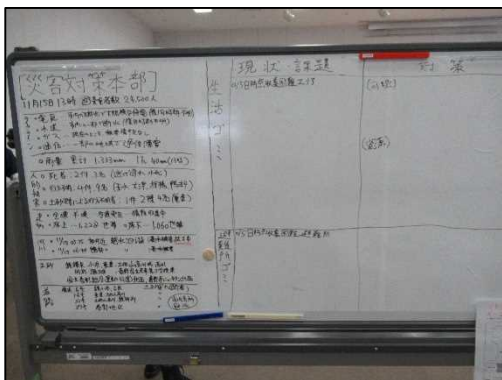
総合対策部



総務・情報部



応急対策部



廃棄物対策部

7 訓練(コントローラーの状況)



8 本部員会議



全



般



総合状況図準備



市長



総合状況図を活用した報告



各部からの報告



9 訓練 閉会式



集 合 完 了



所見 (DPSOL)



講評 (市長)